

# 公益社団法人日本看護科学学会 2019年11月社員総会 議事録

日 時：2019年11月29日（金）16：00～19：30

場 所：ホテル金沢 エメラルド（石川県金沢市堀川新町1番1号 TEL 076-223-1111）

総社員数：312名

出席社員数：264名（会場90名、委任状174名）

会場出席社員：秋元典子、吾郷美奈恵、朝倉京子、浅野みどり、畦地博子、阿部幸恵、安藤詳子、飯田苗恵、飯野英親、石垣和子、伊藤美佐江、牛久保美津子、瓜生浩子、江本リナ、遠藤俊子、遠藤みどり、大江真琴、大川宣容、大島弓子、太田勝正、太田喜久子、岡崎美智子、岡田淳子、折山早苗、片岡純、片田範子、片山はるみ、加藤真由美、神里みどり、河原宣子、川村三希子、神田清子、北岡和代、黒田裕子、洪愛子、小山眞理子、近藤浩子、今野美紀、佐々木幾美、佐藤紀子、澤田いずみ、島内節、杉浦太一、鈴木久美、武村雪絵、泊祐子、中山登志子、中山洋子、長戸和子、西田直子、野間口千香穂、長谷川智子、長谷川真澄、簾持知恵子、百田武司、平松知子、深田順子、深田美香、藤田君支、藤本幸三、法橋尚宏、本庄恵子、前川幸子、前田ひとみ、正木治恵、松井優子、丸岡直子、三吉友美子、村井文江、森明子、守田美奈子、湯浅美千代、吉岡さおり、吉田みつ子、若村智子

（以上75名・50音順）

出席理事・監事：真田弘美（理事長）、須釜淳子（副理事長）

（うち15人社員）石橋みゆき、岡谷恵子、亀井智子、鈴木みずえ、田中マキ子、仲上豪二朗、永田智子、樋之津淳子、深堀裕樹、堀内成子、宮下光令、安酸史子、南裕子（監事）、村嶋幸代（監事）（以上50音順）

議長：真田弘美（理事長）

議事録作成者：木森佳子（石川県立看護大学）、有田孝行（公益社団法人日本看護科学学会事務所長）

## I. 開 会

開会時、会場出席者数59名（うち理事・監事15名）、有効委任状174名、総計233名であり、日本看護科学学会定款第23条および第24条に定められた要件を満たしており、公益社団法人日本看護科学学会2019年11月社員総会を開催する旨が伝えられた。司会は須釜淳子（副理事長）、書記は木森佳子（石川県立看護大学）、有田孝行（公益社団法人日本看護科学学会事務所長）で行なわれた。

## II. 理事長挨拶

真田弘美理事長より、以下の挨拶があった。

今期選出された理事会は15名の理事のうち9名が初任の理事、そのうち4名が40代と30代、3名が男性理事の活気のある若手で組織されている。これに経験豊かな監事2名とで構成されている。様々な提案を頂きながら進めていけるのではと考えている。今期理事会は2点重要視している。一つはNursing Scienceの確立を目指し質の良い論文を早く公表することである。もう一つは若手研究者の育成である。これに対し若手研究者活動推進ワーキンググループを立ち上げた。後で議題を検討させていただきたい。

## III. 第39回日本看護科学学会学術集会会長の挨拶

石垣和子学術集会会長より、以下の挨拶があった。

台風19号の影響で新幹線の車両が水没したが、概ね復旧し安心しているところである。演題は約

1,000題、事前登録は約2,500名、滞りなく進行するよう準備している。約4,000人の参加者に対応する大きな会場がないため複数会場での開催となっている。場所をお聞きになりながら迷わないよう移動をお願いしたい。併せて、金沢を満喫いただきたいと思います。

#### IV. 議長指名および議事録署名人の承認

定款 22 条 3 項に従い、真田理事長が議長に選出された。会場出席者から議事録署名人を募ったが立候補がなかったため、議長から法橋尚宏氏（神戸大学）と前川幸子氏（甲南女子大学）の 2 名が推薦され、承認された。

#### V. 総務報告・理事会報告・委員会活動報告

##### 1) 総務報告 <永田理事>

議案書 (p.6) に基づき、以下の報告があった。

2019年10月31日現在、正会員9,708名、名誉会員16名、賛助会員5件、会員総数9,729である。議案書p.6の中段に記載の表は地域別会員数であり、下段の棒グラフは正会員数の推移で増加傾向である。

##### 2) 理事会報告<永田理事>

議案書 (p. 10-12) に基づき、以下の報告があった。

2019年5月26日から11月29日までに理事会は6回、今期の理事となって初めての臨時理事会を7月11日に開催し今期理事会の方針について審議した。

##### 3) 委員会活動報告 <各理事>

議案書 (p. 13-19) に基づき、委員会活動報告があった。

**和文誌編集委員会**：論文投稿数がほぼ倍増し7月より刷新した新和文誌編集委員会では3人編集長体制に移行した。

**英文誌編集委員会**：投稿論文数は増加傾向である。2018年のインパクトファクターは0.663であった。

**表彰論文選考委員会**：和文誌と英文誌から優秀賞、奨励賞論文を審査・選考し、理事会にて承認を得た。

**研究・学術推進委員会**：研究・学術情報委員会より委員会名を変更、セミナーなどを開催。

**看護ケア開発・標準化委員会**：主たるモデル事業として「摂食嚥下時の誤嚥・残留アセスメントに関する看護ケアガイドライン」開発・標準化を目標として順調に進めている。今年は新たなケアガイドライン作成グループを公募し2件の応募があり理事会により承認、採択されている。

**若手研究者活動推進委員会**：若手研究推進委員会より名称変更した。各地域の核となるエリア・コーディネーターによって未来の看護学・学術のあり方を議論している。

**国際活動推進委員会**：異文化看護データベースを見直し、そのあり方を再検討している。データベースに掲載する国、内容を更新中。2020年2月28-29日第6回WANS 学術集会（大阪開催）を支援している。

**看護学学術用語検討委員会**：提唱されていた「看護学学術用語の検討を統括するシステム」をモデル的に運用、看護学学術用語の持続的・発展的検討のためのシステムについて検討している。

**社会貢献委員会**：JANS39で「ナーシング・サイエンス・カフェ（テーマ：多様な場で働き方を魅せられる看護職の可能性）」、市民フォーラムを開催する。

**広報委員会**：主にホームページで成果を発信する。「看護研究の玉手箱」において平成30年度表彰論文の掲載および平成28年度表彰論文を追加掲載した。英文フライヤーの作成を開始した。

**看護倫理検討委員会**：研究倫理の遵守及び研究活動不正防止について啓発活動、倫理的社会事象に対する情報収集と対応策を検討する。

**利益相反委員会**：和文誌、英文誌、JANS39での発表、セミナー等講師の利益相反申告を実施

した。

**研究倫理審査委員会**：学会員による看護学生を対象としたアンケート調査1件の申請があり簡易審査を行った。

**災害看護支援委員会**：台風等での、日本看護系学会協議会からの協力要請はなかった。日本学術会議と防災学術連携体が主催する「日本学術会議主催学術フォーラム・第7回防災学術連携シンポジウム」に傍聴参加した。

**総務委員会**：学会事務所の運営、会員の入会審査、会員管理（ITの導入による合理化と効率化を推進）、事務所職員との緊密な連携、各議事録の確認を行った。

**他機関との連携活動**：日本看護系学会協議会総会に出席した。医療事故報告制度に関する支援の一環として、一般社団法人日本医療安全調査機構からの依頼により、3名の会員を個別調査部会員に推薦した。看保連2019年度研究助成への応募11件を審査、2件承認した。三保連シンポジウム、社員総会に参加した。

**日本学術会議**：提供のあったニュース・メールを役員に提供した。

**選挙管理委員会**：代議員の電子投票、役員電子投票を行い開票、通知、名簿作成を行った。

### 【質疑応答】

**質問（小山社員）**：新しい理事の顔と名前が一致しない。委員長の名前を明記していただきたい。看護学術用語検討委員会に看護が使用する用語の検討をチーム医療の推進と共に進めてもらいたい。

**回答（真田理事長）**：次回から委員長の名前を明記させていただく。

**回答（安酸理事）**：検討させていただく。

## VI. 審議事項

第1号議案の承認について 2020年度事業計画（案）議案書（p. 20-23）に基づき、説明と審議がなされた。

### （1）学術集会＜須釜副理事長＞

第40回、41回（会長と日時、場所）、42回の日本看護科学学会学術集会準備について説明があった。

### （2）和文誌編集委員会＜宮下理事＞

日本看護科学学会誌第40巻を発行する。投稿規程・執筆要領など、査読ガイドラインの見直しを図り、査読システムの効果的運用と質の向上を図る。学会誌への投稿・掲載の促進及び編集委員、査読者の活動を支援する教育プログラムを開催する。

### （3）英文誌編集委員会＜堀内理事＞

Japan Journal of Nursing Science Vol. 17 を発行する。これまで500ページの制限があったが、Wileyとの交渉・相談により無制限となり多くの論文が掲載できるようになった。また、関西でJJNSセミナーの開催を予定。博士論文の学位申請、もしくは修了後1年以内の掲載に対応するために、ファストトラックという新しい査読システムを検討する。

### （4）表彰論文選考委員会＜亀井理事＞

2019年度の掲載論文の中から選考する。

### （5）研究・学術推進委員会＜深堀理事＞

① 大型研究の推進に関する事業として、2021年度に学術変革領域研究（A）の採択を目指し、申請する領域代表者候補を公募・選定し領域代表者候補と研究・学術推進委員会が協働して研究計画を立案し、申請する。それに伴う会員による大型研究の推進について検討する。

② 萌芽的研究の推進について検討する。

③ 第16回JANSセミナーを開催する。

④ JANS40において委員会の活動報告を行う。

**(6) 看護ケア開発・標準化委員会<須釜副理事長>**

「摂食嚥下時の誤嚥残留アセスメントに関する看護ケアガイドライン」の草案を完成し、外部評価を受けた後、公開する。2件の新規看護ケアガイドライン作成チーム「下部消化管術後患者長期排便障害アセスメントガイドライン」「高齢者排尿誘導ガイドライン」のClinical Question作成ならびにSystematic Reviewに着手する。

**(7) 若手研究者活動推進委員会<仲上理事>**

学会の若手研究者活動推進のための方策の明確化と、若手ネットワークの活用方法の検討、国際化の推進は2020年の2月開催WANSでJANS企画のセッションを担当する。若手会員の研究推進に向けたセミナーを2月11日に東京で開催する。

**(8) 国際活動推進委員会<池田理事 代読：深堀理事>**

JANS40の英語セッション、WANS、EAFONS等での若手研究者の発表促進のため2020年4月にセミナーを開催する。WANS事務局として2021年度に開催する第7回WANS学術集会の開催を引き続き支援する。JANS40で委員会主催のセミナーを開催する。若手研究者を中心に短期留学やプロジェクト参画について学会からの助成を検討する。異文化看護データベースについては今後の在り方を引き続き検討する。

**(9) 看護学学術用語検討委員会<安酸理事>**

チーム医療を意識し用語集の改訂、追加、学術用語のシステムの構築を検討していく。

**(10) 社会貢献委員会<鈴木理事>**

JANS40に向けた社会貢献事業「市民フォーラム」を「市民公開講座」として開催する。学術集会の日程に合わせた「ナーシング・サイエンス・カフェ」では中高生が参加しにくいいため参加しやすい開催時期を検討する。

**(11) 看護倫理検討委員会<樋之津理事>**

研究倫理の遵守及び研究活動不正防止について啓発活動、情報収集と対応案を検討する。

**(12) 広報委員会<田中理事>**

学会広報媒体、主にHPから学会活動を広報、広報の仕方について検討する。JANS40に向けた広報と研究を実践へトランスレーションするための広報「看護研究の玉手箱」による表彰論文の紹介を行う。またJANS40で広報委員会が主催する交流集会の開催について検討する。

**(13) 利益相反委員会<鈴木理事>**

看護学が関連する利益相反の社会事象について情報収集と対応策を検討する。JANS39の2日目に交流集会でアンケートを取らせていただいて課題を明確にしたい。

**(14) 研究倫理審査委員会<岡谷理事>**

申請があり次第、倫理審査を実施し、研究倫理審査に関わる事項を検討する。

**(15) 災害看護支援委員会<永田理事>**

看護系学会としての災害時活動内容について日本看護系学会協議会の災害看護連携会議などに参加して情報収集を行い検討していく。

**(16) 総務委員会<永田理事>**

入会審査、会員管理データシステムの作動状況の把握、改善に努める。事務所運営として職員体制の確立、各職員の業務の評価をする。

**(17) 選挙管理委員会<永田理事>**

2021年選出理事候補者選挙準備をする。

**(18) 他機関との連携**

- ① 日本看護系学会協議会
- ② 日本学術会議

### ③ 看護系学会等社会保険連合

第1号議案について真田理事長より質問や意見が促されたが、特にはなく過半数の承認が得られたため、原案通り可決された。

#### 第2号議案 2020年度予算(案)の承認について 2020年度収支予算書(案)に基づき説明と審議がなされた。

石橋理事(会計)より2020年度収支予算書(案)が議案書(p.24-27)、前年度の予算額と比して説明された。

事業活動収支の部の事業活動収入の会費収入は101,300千円でうち300千円が賛助会員で101,000千円が正会員となっている。学会誌収入が書籍販売分と著作権を合わせて1,133千円、セミナー収入が2回のJANSセミナーと、1回のJJNSセミナーを合わせて4,000千円、学術集会収入が次年度は東京開催で今年度よりも12,732千円大きく70,754千円で、事業活動収入合計は177,438千円である。

事業活動支出は事業費支出として学会誌発行費支出が和文誌編集費支出7,191千円、英文誌編集費支出18,620千円で計25,811千円、編集活動費は和文誌と英文誌の委員会関連で1,555千円、看護学術振興費支出は各委員会関連の予算で7,479千円、研究学術活動支援費支出は表彰とセミナー等に関する予算で4,292千円、社会的活動費支出は社会貢献委員会と広報委員会の公益目的事業分の予算で1,336千円の計上となっている。

学術集会費支出はJANS40の開催が70,754千円、翌年度のJANS41の準備に2,937千円の予算で、計73,691千円である。

管理費は60,677千円見込んでおり、事務所職員(正職員5名、パート2名)雇用に関する給料や社会保険料、事務所の賃料やOA機器のリース料、会計士や弁護士への委託料、消費税などが含まれる。また、総務委員会や利益相反委員会、選挙費用など公益目的事業とはならない費用544千円も管理費に計上している。

その他の支出は未納による会員資格喪失分で2,000千円を見込んでおり、事業活動支出合計は174,841千円、前述の事業活動収入合計177,438千円から事業活動支出合計174,841千円を差し引いた事業活動収支差額は2,597千円となり、事業活動としてはプラス予算となっている。

投資活動収支の部は各種積立金を取り崩して資金として充てる投資活動収入が選挙積立の取崩し、退職給付引当資産の取崩等で815千円、目的のある積立を行う投資活動支出が選挙預金への積立て、退職給付引当資産への積立てで1,870千円のため、投資活動収支差額合計が1,055千円のマイナスになった。

財務活動収支の部は複合機のリース債務が支出にあるのみで、財務活動収支差額は527千円のマイナスとなった。予備費は例年3,000千円を計上していたが実績がなく1,000千円に減額し、事業活動収支差額2,597千円から投資活動収支差額1,055千円、財務活動収支差額527千円、予備費1,000千円を除いた15千円が当期収支差額となる収支予算であることの説明があった。

p.28-p.29は収支予算の内容を公益法人会計基準に基づく正味財産増減計算書の様式にしたものであり、公益目的事業、収益事業等、法人会計の3つの区分で、正会員からの会費収入101,000千円は公益目的事業と法人会計に50%ずつ配分され理想的であること。公益目的事業会計は27,122,181円のマイナスになっており、収益事業での9,502,451円のプラスが生じているが、JANSは公益社団法人のため、プラスになった分を一定の割合(計算式あり)でマイナスの公益目的事業に振り替えることが可能なため、税金は予算上ではあるがすべての法人が納付する法人住民税7万円程度と見込まれ、最終的に正味財産としては3,408,553円が増えるとの説明があった。

※真田理事長より補足

本学会の締め（決算）は3月、つまり4月から新たな期となる。予算案は12月の社員総会に提出し、決算は6月の社員総会で報告している。

第2号議案について真田理事長より質問や意見が促されたが特になく、過半数の承認が得られたため、原案通り可決された。

第3号議案 真田理事長より第42回日本看護科学学会学術集会会長は 広島大学大学院 森山美知子先生の提案がなされ、会場より承認を得られた。

### WANS 開催に関する挨拶と報告

WANS理事長の片田範子社員より以下の報告があった。

登録参加者は1,000名を超え、演題は700を超えている。査読者より日本人のきれいな英語で記載されていると評価があり、画期的なことと捉えている。2020年度2月28-29日に第6回WANSが開催される。関西圏の大学の教員を中心に準備を進めている。10年目の節目を迎えたWANSの事務局とホストをJANSが担っており学術集会の開催が日本に戻ってきた。看護学がどう組み込まれているか、看護ケアが社会化されているか、様々な発表があることを期待し、協力をお願いしたい。

### Ⅶ. その他

#### 1) 英文誌投稿論文に関する件

当学会の掲載の論文に対して、初めてのレターの投稿があり、8月に掲載された。その内容と対応について説明と報告があった。近く2回目のレターが公開される見込みである。

#### 2) ハゲタカジャーナルに関する匿名の投書について報告と説明があった。

以上で、社員総会の議案については説明と報告が終了したが、ここで、別紙資料「若手研究者活性化に向けての取り組み報告書」に関して説明があった。

#### 「若手研究者活性化に向けての取り組み報告書（案）」について

真田理事長より、「若手研究者の活性化」を今期理事会の取り組みの一つとしている。これに対し、ワーキンググループでディスカッションを重ねて報告するまでに至っている。6月の定例社員総会で事業計画の変更と補正予算の計上を見込んでいるので皆様に説明させていただいてご理解をいただきたいと挨拶があった。続いて「若手研究者活性化に向けての取り組み報告書（案）」を基に説明があった。

当学会のミッションは、看護学の発展を持って国民の健康と福祉に貢献するという基本理念の基に、看護科学（Nursing Science）に資する論文の公表と学術集会の開催、そして若手研究者の育成に他ならない（p. 8）。

看護教育が急速に大学化し大学院が増え、若手研究者の育成が喫緊の課題となっていた。2014年に若手研究推進委員会を発足させ、2016年JANS若手の会ではエリア・コーディネーター制度が発足し2019年にその答申が理事会に提出された。

今期理事会での若手研究者育成の方向性として、若手研究活性化ワーキンググループを立ち上げ、2回の対面会議、10回以上に及ぶメール会議を経て提案書を理事会に提出した。この提案書は若手研究者の支援に向けて論文の公表方法の拡大、研究能力の向上、ならびに学際化、さらにはそれらの事業の経済基盤から実行可能性について言及されている。2回理事会で審議され修正・加筆された後に報告書としてまとめられた。

理事会では当学会での若手研究者とは、年齢なのか、キャリアなのか、議論は白熱した。少な

くとも10年以上先、20年後に最も高いアクティビティが期待できる人材として暫定的に年齢で定義することとした。どこの年齢で区切るのがよいか、日本学術振興会科学研究費・若手研究、日本学術会議での若手アカデミー運営要項、当学会の正会員の年齢分布を参考とした。これらより全体の32.4%を占める45歳未満が妥当であるとした。

この報告書は日本の将来の看護科学をけん引する若手研究者育成に焦点をあて、和文誌、英文誌、学会発表に関する論文公表方法、研究体制やメンターシップによる研究力の向上、助成金制度を含む国際競争力の強化の3点についてまとめたものである。これらが実行された10年後の日本の看護科学の進化を大いに期待している。

(以下、各担当理事から説明があった)

**若手研究者を取り巻く現状と課題について** (p. 10-11) 仲上理事より説明があった。

看護学研究者は臨床経験を経てパートタイムで大学院を修了しアカデミアに入る。他の理系領域のキャリアパスとは異なり、研究力は十分とはいえず、若手研究者活性化を考える上で課題である。

2017年の日本看護系大学協議会・日本私立看護系大学協会(2019)の報告から、毎年1,800を超える修士論文・博士論文が作成されていることになる。Kameokaら(2016)によると、博士号取得者がほとんどを占めている国立看護系大学に所属している研究者(N=2,292)が過去10年間で執筆した筆頭英語論文数は699本であり、1,600名程度の研究者が一本も英語論文を筆頭著者として執筆しておらず、多くの学位論文が国際誌に掲載されていないことが伺われる。

研究費獲得については日本学術振興会の科学研究費に限ってみると、新規・継続を合わせても合計3,000件である。国内に約9,000名の看護系大学教員がいること、内訳は比較的少額の若手研究および基盤研究(C)が計2,350件であることをみると、約3分の2はまとまった研究費を獲得できていないことになる。

国際化に関して教員の短期海外派遣は数としては少なくはないが、各個人の自助努力で海外留学している現状がある。国際学会での発表形式は示説が多く、口頭発表やシンポジウム、招聘講演などの機会は限定的という問題がある。

若手研究者がなぜ十分研究できないかは、若手研究者の研究活動を阻害する要因を明らかにした報告(深堀ら, 2015)にある6つの因子を参考にしていきたい。

**論文公表の場の整備について** (p. 12-13) 英文誌について堀内理事より説明があった。

英文誌の投稿数は増加傾向にある。2015-2018年までの採択率は平均12.8%だが、日本人に限ってみると平均31.8%であった。問題と考えているのは、投稿から初回査読結果の返信まで平均86日、最終結果の平均は153日で長い時間を要していると考えている。300日以上かかっている論文もある。筆頭著者の年齢は、50代36%、40代30%、30代26%の順で多いが、不採用論文数は30代が最も少なく、若手の論文の質に期待が持てる。

若手の人が投稿してくれるにはインパクトファクターが重要となる。2010年が0.034、2017年には1.062、2018年は0.663と推移している。比較として我が国初の看護・健康科学領域の国際誌であるNursing & Health Sciences(山口大学)は、インパクトファクターが1以上(過去5年間)であり、2018年は1.321である。一方、最終採択までかかる期間は平均200日以上であり、JJNSより長く、著者は米国圏、ヨーロッパ圏であり日本人筆頭著者が少ない状況にある。

投稿から初回査読結果の返信までの平均日数は80日ではなく60日としたい。もう一つはインパクトファクターを上げる戦略が必要である。自己引用の比率は1-2%で低い。他の国際誌では14-20%である。質の良い論文を多くの方に投稿していただきインパクトファクターを

上げたい。Fast-Trackシステムを創設し、博士学位申請論文、もしくは修了後1年以内の掲載のための特別迅速審査を受けることができるようにする。現査読システムは三段階ありSubjective Editorが二人の査読者を決めて通常審査を行うが、査読者がなかなか見つからず返事が遅れる。ここの段階をモニタリングするシステムを考えている。

またアクセプトから掲載まで50日かかっている。原因を分析していく予定である。学位申請論文、もしくは修了後1年以内掲載を目指す場合はチームを作って対応する。

KPIは日本人の投稿数を130本まで増加させる。投稿から初回査読結果の返信までは平均60日に短縮する。

(p. 14-15) 和文誌について宮下理事より説明があった。

和文誌の投稿状況についてp.42- p.43を参考に以下の説明があった。

2016年に投稿総数が105と前年の76から激増している。その理由は山本則子編集委員長の時に研究報告をなくし原著論文として採択したことにあると考えている。

45歳で区切り投稿数を比べると半数が45歳以下である。採択率をみると45歳以下の方の採択率が良い。論文投稿から初回返事までの日数は採択論文で2016年の50日程度から2018年は32日、不採択論文で46日から37日と短縮化されている。採択論文の最終決定までの日数は201日から110日、不採択論文で49日から40日と大幅に短縮されている。最近は改善されているといえる。

p. 44に著者条件について日本看護系学会協議会会員学会および看護関連学会の学会誌について調査した。これは著者全員が当会の会員である、という部分の見直しのためである。他の学会誌では著者全員が学会員である必要がある、筆頭著者のみに会員であることを求める、条件付きなど全員が会員でなくともよいとする学会もある。課題は、学術集会への演題発表は多いものの、和文誌ならびに英文誌への投稿数が少ないことで、学際的に全員が会員であることを求めるとJANSが不利益になる可能性がある。そのため筆頭著者のみ会員であれば良いとするなどの検討が必要である。若手の方は英文誌に投稿してほしいと思うが、修士・博士論文が年間1,800題、学術集会の発表が1,000題と考えるととつと和文誌も投稿が増えてほしいと考える。博士の学位取得のために論文の採択が必要な場合があり、査読期間もさらに短縮化したい。

目標は若手が積極的に論文投稿（とくに修士論文・博士論文）できるよう投稿規定を検討し、広報する。その方法は投稿者の規定を見直すこと、査読期間の短縮化、学位論文のための迅速論文査読システムの構築を検討する。KPIは投稿数、採択数を増やすこと、初回査読結果通知まで30日以内にするをあげている。

**学術集会について** (p. 16-17) 須釜副理事長より以下の説明があった。

(p. 47) に会員数・学術集会参加者数・演題発表数推移のグラフがある。学術集会の演題発表は過去4年間1,000題を超えている。多くは修士・博士論文の内容と捉えている。また2015年から交流集会の発表もあり研究者グループができていないかと考える。2014年からはEnglish Sessionが設けられ、10題前後の発表がある。学術集会を通して論文投稿につなげていく役割を果たしている。課題は学術集会への演題発表は多いものの、和文誌ならびに英文誌への投稿数が少ないことで、学術集会における優秀な演題を和文誌または英文誌へ投稿し論文化する過程を推進していきたい。この方策として学術集会発表時の表彰制度を設けたい。100演題に1演題の割合で表彰し、表彰された論文は積極的に論文を投稿してもらいたい。

KPIは表彰された演題の投稿数を5論文/年としている。

演題の表彰はJANS40で運営事務局が行う予定であるが、JANS41から本格的に実施してい



く旨の補足説明が真田理事長からあった。

**研究能力の向上について** (p. 18-20) 深堀理事より以下の説明があった。

研究支援体制：若手研究者を巻き込んだ大型研究費の獲得

2012年度に日本看護科学学会が行った調査では若手看護学研究者の6割が「若手研究者を公募し参加できる学会主導の大規模研究プロジェクトの実施」を求めている。研究・学術推進委員会は、2019年度の大型の特別推進研究・基盤研究 (S)、基盤研究 (A) の社会医学、看護学およびその関連分野、スポーツ科学、体育、健康科学およびその関連分野、人間工学及びその関連分野の採択課題を分析した。特別推進研究・基盤研究 (S) の看護学研究者による採択課題はなく、基盤研究 (A) で1件であった。基盤研究 (A) においても看護学領域の採択が減少している状況がある。

またAMEDについても検討・調査した。2016年度から2018年度の看護学研究者が研究開発代表者である研究開発課題は若手育成枠1件を含めて3件に過ぎなかった。2019年度の採択状況をみても看護学研究者が研究開発代表者であるのは0件、他領域の医学や公衆衛生学で症状看護、患者教育をテーマに採択されている。2011年に「日本看護科学学会の今後の発展とその方向性」が出されておよそ8年が経過しているが、不十分で「若手研究者を公募し参加できる学会主導の大規模研究プロジェクト」は実現していない。課題は大型研究を未だ1件も獲得できていない、基盤研究 (A) でさえ採択が減少している。

2019年度に研究・学術推進委員会が行った科研費採択課題の分析において、「データベース・プラットフォーム・研究基盤システム構築」「学術的基盤・理論・原理構築」などをテーマとした課題が一定数ある。こういうものが看護学領域でないということは、看護学が発展しにくいということが考えられる。

COEプログラムは、目的は達成したものの海外一流誌への掲載には著名な効果は認められなかった。日本看護科学学会が2012年に行った調査でも過去3年間で1本も英語論文が掲載されていない人が83%いると分析した。大型研究を推進していく上では、研究水準の向上と国際誌へのアウトプットが重点課題である。AMEDの分析をしたところ、基本的には医学研究者などにプラスして看護学研究者が含まれた学際的研究チームでないと事実上とれないという状況が見えてきた。国際論文によるととにかくチームサイエンスをしないといけない、看護学者はチームサイエンスをしないと他の学問からおいていかれるという強い危機感を表明している。とにかく若手研究者が入れる学際的、大型研究を獲得する方策を考える必要がある。

目標は若手が入れる大型研究費を獲得し、学際的な研究を促進することである。(p. 54)を参考にしてほしい。目標としているのは学術変革領域研究 (A) である。内容に博士の学位取得後8年未満または、39歳以下の博士の学位を未取得の研究者を積極的に採択するとあり、若手が入れる大型研究として目指すことにした。日本看護科学学会の学術・研究推進委員会と連携してこの研究費の領域代表者となる意思をもつ研究者を公募し、委員会が支援して採択を目指す。

KPIは2020年度に研究計画を申請し、2021年度から5年間の研究費を獲得する。

**研究支援体制：システムティックレビュー作成** (p. 21) について須釜副理事長より説明があった。

システムティックレビューに若手を積極的に入れるため、「摂食嚥下時の誤嚥・咽頭残留アセスメントに関する看護ケアガイドライン」では若手研究者を13名中11名採用した。今後はシステムティックレビューを論文投稿することをチャレンジしたい。新規のガイドラインでも同じように適応させていきたい。そしてJANS学会誌に投稿できるよう支援したい。

若手研究者を支援する立場にある指導者への実態調査 (p. 22) について仲上理事より説明があった。

若手研究者の育成にはメンターからの支援も必要である。若手研究者の研究活動を阻害する要因には「教育や大学運営などの業務の負担」があり若手研究者自身の裁量では調整が難しい、講義や演習、実習などの教育業務が研究活動を阻害していると認識していた。73.9%の若手が日本看護科学学会に求めることとして組織や上司に提言してほしいとあげている。課題はシニアの研究者が若手の支援をどのようにしているのか調査がない。

目標はシニア研究者が若手研究者にはどのような支援が必要と思っており、実際にどれくらいの支援ができていないのか、できていないとしたらなぜできていないのかを明らかにし、どのような提言をしていくか検討する。方法として代議員を対象にウェブ調査を実施する。

KPIは2020年度に報告書を発表する。論文としてJANS和文誌、英文誌に掲載する。予算は100万円の計上を考えている。

国際化について (p. 24-25) 池田理事欠席のため真田理事長より説明があった。

国際学会発表への助成をしたい。現在、ポスター発表が多いことを口頭発表に変えるにはJANSがどう教育すればいいかと考えた。目標は国際的な研究活動を推進することとして、方法は口頭で発表する研究者に参加費の助成をすることである。KPIは減少してきたJANS学術集会のEnglish Sessionの演題数を30にすること、WANS学術集会に若手研究者企画のシンポジウムを開催することである。予算措置は海外で口頭発表する際の学会参加費の支援である。

海外研修助成 (p. 26-27) 池田理事欠席のため真田理事長より説明があった。

2017年度の調査で長期海外派遣への支援が難しい大学が多い状況であることがわかった。海外研修のきっかけとして助成制度を考えている。一部助成することを目標にし(年に3~5件)、海外助成委員会を先に立ち上げ、その内容を吟味し理事会で検討していきたい。予算措置は2021年度から5年間250万円としている。

財源について (p. 28-29) 永田理事より説明があった。

#### ① 予算措置について

2020年度単年度のみの計上分として200万円ある。これは学術集会での演題表彰が100万円である。それとシニア研究者を対象とした若手研究者養成に関するアンケートが100万円、合わせて200万円の支出となる。

2020年度以降継続的に計上する予算は和文誌編集費として200万円予算を増額する。これは共著者の会員資格を問わないとの変更に伴い、投稿数が飛躍的に増えることが予想されるための増額である。また、若手研究者の養成に関する助成金制度の検討費用として20万円、学術集会の演題表彰の副賞など50万円を合算し2020年度以降は270万円が継続して支出となる見込みである。

なお、日本看護科学学会では毎年300人程度が新たな会員として登録されており、2021年度以降の270万円は新規会員300名分で賄えるだろう。

2021年度から5年間計上する予算として年間300万円の計上を見込んでいる。内訳は国際学会への参加助成50万円、海外研修への助成250万円である。3年後に見直しする予定だが、5年間で1,500万円の支出を見込んでいる。これらの追加予算の計上としては2020年度が420万円、2021年度~2025年度が570万円となる。過去5年間の収支差額から、毎年1,000万円程度の繰越があることから本助成事業を実施しても一般正味財産が大きく減る可能性は低い。

#### ② 課題として残されている点

和文誌と英文誌の合算経費が会費収入の3割を超えないという財務上のルールがある。約

9,000万円の会費納入の3割を合計経費が超得る可能性もあり、これに対して新規会員の増加および、英文誌に関して投稿料や掲載料などの収入源の新たな確保を検討する必要がある。JANSは公益社団法人で繰越金あまり大きな額となることは好ましくない。だが、何かの際に残しておくべき額として監事からも5,000万円ほどではという情報をいただいている。

#### 【質疑応答】

**質問（加藤社員）**：論文を日本語から英語にするには英文校閲より費用がかかる。経済的な余裕のない大学院生だと日本語での論文投稿となってしまう。JJNSに投稿してほしいのならば、日本語から英語にすることへの助成もよいのではないか。

**回答（真田理事長）**：まずは英語で書いてみるというトレーニングが必要と考えている。

**（堀内英文誌編集委員長）**：大学院生は、アカデミックライティングとして教員が指導し英語で書いてみる状況があるようだ。英語校閲の費用は必ず発生するので、各大学での奨学金の場合もあれば、指導教員が支援している場合もある。助成に対する論文であれば（翻訳は）いいのかもしれないが、年をまたいでので校閲までを助成するのは無理があるかもしれない。

**（真田理事長）**：本件は議論して6月に返事をしたい。

**質問（飯野社員）**：オープンアクセスのジャーナルについて若手がそれはハゲタカジャーナルではないかと。つまりオープンアクセスジャーナル＝ハゲタカジャーナルという認識がある。看護のジャーナルのホワイトリストがあると使えるのではないかと。

**回答（深堀理事）**：教育的にホワイトリストを提示しようとは思いますが、独自で作成するとなると審査が必要になる。既存の情報を提供することになると思われる。

**（飯野社員）**：大手出版社（Wileyなど）は内部資料として持っているのではないかと。相談してみてもどうか。

**（深堀理事）**：情報収集してみようと思う。

**質問（南監事）**：この報告書については理事会のメンバーも十分な議論がないとの認識である。従って内容的には議論の余地がある。例えば筆頭著者以外は会員でなくとも投稿できるということは、本会の定款の考え方に抵触する可能性もある。新しく変えていくことは間違いではないが、理事会でもこの会（社員総会）でも議論が十分できていない。加えて若手研究者への助成は学会の予算の一部を会員に使うということで、研究計画書などを十分に吟味し、ぜひ学会として応援したいという人をどのように選ぶのか非常に難しい。また学会の予算の使途としてその方向性で良いのか懸念がある。学会が学術的に若い研究者を育てていくことは素晴らしい。若手がチャレンジできるチャンスを作ることはとても大切である。だが学会が特別な人に対して予算を使うということは十分な機構・システムなどを作らないといけないと思う。これに対しては社員の声を吸い上げる仕組みを作って理事会で議論してもらいたい。

**回答（真田理事長）**：すでに理事会では承認を得ている。助成金制度に関して国際化は必要でないかということと、留学など大学での研究体制については、社員の意見

を聞きたい。また、予算の割合なども考えていきたい。筆頭著者の件については前理事会からの提案もあったのでぜひ進めたいと考えている。

**回答（秋元社員：前和文誌編集委員長）**

：定款との整合性についてはこの場で返事ができないが、チームサイエンスの概念が普及しつつあり、共同研究、さらに研究分野の広がりもある中、論文の共著者が会員でないと、との仕組みは、今後の研究の進展から考えてもすでに限界ではないかと感じている。従って共著者の会員資格の変更に関する検討は有益ではないかと考えている。

**回答（真田理事長）**：定款については、問題ないと考えていたが確認してみる。

**質問（太田社員）**：学会員はこの学会誌でなければ投稿できないということではなく、投稿先はいろいろある。JANSが多くの論文を集めたいとの理由で著者の条件を外そうという議論になっている。多く集めたいのであれば、投稿する場合は共著者が会員であるか問わないとのことで特集を組んでやってみるという方法もある。一律に会員資格を外す必然性は先にあるのではないか。

**回答（秋元社員）**：他の学会誌では、編集委員会が認めればよいというバリエーションもある。こうしたバリエーションでの対応といった工夫もある。

**意見（松井社員）**：いい研究ができたと思っても、共著者に会員資格の問題で当学会誌には投稿できないこともあるので、広く集めるという姿勢になっていただけるとありがたい。

**意見（杉浦社員）**：この場は社員の意見を求める場なのか、それとも持って帰って再度検討するということなのか、次のステップを教えてください。

**回答（真田理事長）**：この案は理事会としてはまとまっているが、監事からこの社員総会で意見を聞いて欲しいとの提案があった。案としている理由は意見があれば再考し、なければ案をとりこの方向で進めたいとの意味があった。今、意見があったので、6月の社員総会で最終案を出させていきたい。

**意見（杉浦社員）**：報告書を受けて具体的な計画を学会が提示すればどうか。報告書イコール計画のように見える。報告書から実際に何を学会が取り上げ予算を使うか検討してはどうか。次に出てくるのは計画になっているという流れになるのか。

**回答（真田理事長）**：我々が検討しなくてはいけないのは、著者の会員資格の件、それと若手研究者に関する助成金制度の件であると考えている。それ以外の案はとれると考えている。意見をいただいた2点については理事会に持ち帰って検討したい。

**意見（大島社員）**：本件は議事進行上「その他」ではなく検討内容として明確にしてほしい。また若手研究者育成の取り組みなのか、著者の会員資格といった学会のシステムに関する件なのか、つながっているのだと思うが分けて考えてもよいのではないか。

**回答（真田理事長）**：報告書の中にこの2点が入っており審議事項に入っていなかったのも、まぎらわしかったかもしれない。若手研究者がどうしたら当学会誌に投稿してくれるか、という視点で議論しているためと考えている。若手だけではなく全会員という意味で再検討したい。

**意見（牛久保社員）**：学術集会の演題申し込みも会員に限らない方がいいのではないかと、検討してほしい。

**回答（真田理事長）**：確かにその意見はあったが、まずは学会誌から変えていってはどうか、

というまとめになった。検討していきたい。

**意見（村嶋監事）**：日本看護科学学会が設立して40年になる。若手研究者の育成、活性化をきっかけに色々見直す、という動きだろうと捉えている。せっかくの報告書だったので、もっと時間がとれるとよかったかと思う。著者の会員資格の件は、これをJANSが考えられるくらい豊かになったということもあり、チーム医療、チームサイエンスという時代になってきたことも実感している。研究助成についてはナーバスな問題を含む。きちんとした段取りと審査が求められるだろうが、監事の一人としては、今、若い人に投資するのは必要なことだと考えている。

**回答（真田理事長）**：公益社団法人である以上、助成金制度は内閣府に申請しなければならず細かな決め事もしなくてはならない。メリット、デメリットを含めて考えていきたい。

## VIII. 閉 会

以上をもって、2019年11月社員総会が閉会した。後から参加された方を加えて出席者数は264名であったことが須釜副理事長より報告された。

2020年 3月8日

議 長 真田 弘美 ㊟

議事録署名人 法橋 尚宏 ㊟

議事録署名人 前川 幸子 ㊟

# 公益社団法人日本看護科学学会 2019年11月社員総会 議案書

日 時 2019年11月29日(金) 16:00~18:30(予定)

場 所 ホテル金沢 エメラルドAB

〒920-0849 石川県金沢市堀川新町1番1号 TEL:076-223-1111(代)

## I. 開 会

## II. 理事長挨拶

## III. 第39回日本看護科学学会学術集会会長の挨拶

## IV. 議長指名および議事録署名人の承認

## V. 総務報告・理事会報告・委員会活動報告

## VI. 審議事項

第1号議案 2020年度事業計画(案)の承認

第2号議案 2020年度予算(案)の承認

第3号議案 第42回日本看護科学学会学術集会会長の承認

## VII. その他

## VIII. 閉 会

## 公益社団法人日本看護科学学会 役員

理事長 真田 弘美

副理事長 須釜 淳子

理事：池田 真理、石橋みゆき、岡谷 恵子、亀井 智子、鈴木みずえ、田中マキ子、  
仲上豪二郎、永田 智子、樋之津淳子、深堀 浩樹、堀内 成子、宮下 光令、  
安酸 史子

監事：南 裕子、村嶋 幸代

### 名誉会員

稲岡 文昭、氏家 幸子、薄井 坦子、金川 克子、川嶋みどり、川村佐和子、  
小島 操子、小玉香津子、近藤 潤子、新道 幸恵、中島紀恵子、林 滋子、  
樋口 康子、松野かほる、矢野 正子、山崎 智子

### 賛助会員

(株)医学書院、(株)南江堂、(株)日本看護協会出版会、ヌーヴェルヒロカワ、(株)へるす出版

(以上、五十音順・2019年10月25日現在)

### 日本看護科学学会学術集会会長

第39回学術集会会長      第40回学術集会会長      第41回学術集会会長

石垣 和子

萱間 真美

百瀬 由美子

## 社員

### 【北海道】

大日向 輝美  
河原田まり子  
川村 三希子  
菊地 ひろみ  
今野 美紀  
澤田 いずみ  
城丸 瑞恵  
長谷川 真澄  
樋之津 淳子  
平 典子  
松浦 和代  
矢野 理香  
吉田 礼維子

### 【東北】

朝倉 京子  
安藤 広子  
石井 範子  
一戸 とも子  
遠藤 恵子  
大森 純子  
尾崎 章子  
角濱 春美  
桑名 佳代子  
小林 淳子  
武田 淳子  
武田 利明  
鄭 佳紅  
野戸 結花  
原 玲子  
藤田 あけみ  
古瀬 みどり  
宮下 光令  
吉田 俊子

### 【関東A】

飯田 苗恵  
市村 久美子  
牛久保美津子  
内田 陽子  
岡 美智代  
金子 昌子  
加納 尚美  
神田 清子  
近藤 浩子  
斉藤 基  
佐藤 由美  
鈴木 幸子  
高井 ゆかり

常盤 洋子  
巴山 玉蓮  
春山 早苗  
廣瀬 規代美  
二渡 玉江  
古谷 佳由理  
松田 安弘  
水野 道代  
村井 文江  
村上 礼子  
安酸 史子  
横山 京子  
六角 僚子

### 【関東B】

荒木田美香子  
飯村 直子  
池崎 澄江  
石橋 みゆき  
上野 まり  
岡田 忍  
数間 恵子  
勝山 貴美子  
金井 PAK 雅子  
黒田 裕子  
近藤 まゆみ  
齋藤 やよい  
佐藤 禮子  
茂野 香おる  
島袋 香子  
白水 眞理子  
高橋 眞理  
田高 悦子  
手島 恵  
永田 智子  
中山 登志子  
深堀 浩樹  
正木 治恵  
眞嶋 朋子  
増島 麻里子  
松下 年子  
水戸 優子  
村上 明美  
村中 陽子  
森 明子  
森 恵美  
湯浅 美千代  
吉田 澄恵  
和住 淑子

渡邊 眞理

### 【東京A】

五十嵐 歩  
大江 真琴  
大久保 暢子  
大田 えりか  
柏木 聖代  
片岡 弥恵子  
上別府 圭子  
亀井 智子  
戈木クレイグ  
ヒル 滋子  
眞田 弘美  
習田 明裕  
武村 雪絵  
田中 眞琴  
仲上 豪二朗  
中山 和弘  
成瀬 昂  
春名 めぐみ  
堀内 成子  
前田 樹海  
宮本 有紀  
吉田 千文

### 【東京B】

阿部 幸恵  
飯野 京子  
池田 眞理  
井上 智子  
井村 眞澄  
江本 リナ  
大久保 功子  
太田 喜久子  
岡谷 恵子  
柏木 公一  
香春 知永  
亀岡 智美  
川原 由佳里  
北 素子  
草間 朋子  
小松 浩子  
佐々木 幾美  
佐藤 紀子  
田中 美恵子  
筒井 眞優美  
長江 弘子  
本庄 恵子  
守田 美奈子

山内 豊明  
吉田 みつ子

綿貫 成明

### 【甲信越】

會田 信子  
浅川 和美  
有森 直子  
遠藤 みどり  
定方 美恵子  
征矢野あや子  
中込 さと子  
平澤 則子  
安田 貴恵子  
八尋 道子

### 【北陸】

石垣 和子  
大乗 麻由美  
加藤 眞由美  
北岡 和代  
須釜 淳子  
長谷川 智子  
平松 知子  
松井 優子  
丸岡 直子

### 【東海】

明石 恵子  
浅野 みどり  
足立 はるゑ  
足立 久子  
安藤 詳子  
池松 裕子  
市江 和子  
大石 ふみ子  
大島 弓子  
太田 勝正  
大西 文子  
大見 サキエ  
岡田 由香  
片岡 純  
片山 はるみ  
門間 晶子  
篠崎 恵美子  
島内 節  
白鳥 さつき  
杉浦 太一  
鈴木 みずえ  
多喜田 恵子  
奈良間 美保

野口 眞弓  
深田 順子  
藤井 徹也  
古田 加代子  
本田 育美  
操 華子  
箕浦 哲嗣  
三吉 友美子  
柳澤 理子  
山田 紀代美  
山田 聡子  
渡邊 順子

### 【近畿A】

赤澤 千春  
秋元 典子  
東 ますみ  
池田 清子  
石井 豊恵  
井上 智子  
ウィリアムソ  
ン 彰子

内布 敦子  
江川 幸二  
江川 隆子  
大野 かおり  
大野 ゆう子  
片田 範子  
勝原 裕美子  
工藤 美子  
久米 弥寿子  
グライナー 智  
恵子  
黒田 裕子  
洪 愛子  
河野 あゆみ  
近藤 麻理  
清水 安子  
鈴木 久美  
瀬戸 奈津子  
高橋 弘枝  
玉木 敦子  
都筑 千景  
泊 祐子  
檜木野 裕美  
二宮 啓子  
簀持 知恵子  
林 千冬  
法橋 尚宏

前川 幸子  
牧本 清子  
松田 宣子  
丸 光恵

### 【近畿B】

吾妻 知美  
伊波 早苗  
岩脇 陽子  
遠藤 俊子  
岡山 寧子  
桂 敏樹  
河原 宣子  
竹之内 沙弥香  
内藤 知佐子  
西垣 昌和  
西田 直子  
藤本 幸三  
星野 明子  
松月 みどり  
吉岡 さおり  
若村 智子

### 【中国・四国】

吾郷 美奈恵  
畦地 博子  
井伊 久美子  
伊東 美佐江  
内田 宏美  
瓜生 浩子  
大川 宣容  
岡田 淳子  
雄西 智恵美  
折山 早苗  
掛田 崇寛  
片山 陽子  
岸田 佐智  
久保田 聰美  
小山 眞理子  
陶山 啓子  
祖父江 育子  
竹崎 久美子  
長戸 和子  
中西 純子  
中山 洋子  
野嶋 佐由美  
野本 百合子  
原 祥子  
百田 武司  
深田 美香



藤田 佐和  
南 裕子  
宮下 美香  
森下 安子  
森本 美智子  
森山 美知子  
薬師神 裕子  
山田 覚

**【九州・沖縄】**  
飯野 英親  
宇佐美 しおり  
宇都 由美子  
江藤 宏美  
大池 美也子  
岡崎 美智子  
尾形 由起子

影山 隆之  
神里 みどり  
金城 芳秀  
国府 浩子  
斉藤 ひさ子  
佐藤 香代  
正野 逸子  
竹熊 千晶

谷口 初美  
田村 やよひ  
長家 智子  
永松 有紀  
野間口 千香穂  
橋口 暢子  
日高 艶子  
藤田 君支

前田 ひとみ  
益守 かづき  
松浦 賢長  
三橋 睦子  
宮園 真美  
宮林 郁子  
村嶋 幸代  
村田 節子

以上、312名  
地区別  
五十音順

(2019年10月25日現在)

## ご挨拶 理事長 真田弘美

このたび2019年6月10日をもって公益社団法人日本看護科学学会理事長に就任いたしました。日本看護科学学会の基本理念の下、鎌倉やよい前理事長の事業を継承し、本会の発展に全力を尽くす所存でございますので、皆様方のご指導とご協力を賜りたくよろしくお願い申し上げます。

さて、今期選出された理事会の特徴は、14名の理事のうち、9名が初任の理事で、そのうち4名が40代あるいは30代、3名が男性理事です。そして、監事は2名の最強のエキスパートの先生方です。

つまり、会員が当期理事会に期待することは、若手研究者と男性研究者の活躍の場について、若手研究者の育つ立場とシニア研究者の育てる立場から検討し、それを提供できるシステムづくりとその一部の実践と理解いたしました。ただし、理事任期は2年間に限られておりますので、目標を2つに絞り込みたいと考えております。

本会は、特に学術的活動を推進する学会であることを鑑みると、

1. **Nursing Science** を標榜する学会として、  
前理事会の時から始めた看護ケアの開発・標準化を推進するためのガイドラインの発行と、現在の看護学研究に大きく不足している大型研究費を獲得するためのシステム構築を始めます。
2. 若手研究者の論文数の増加とグローバル化を目指し、  
和文誌、英文誌の投稿規定や迅速査読方法の検討、研究助成、国外研修助成、学会発表時の表彰など、若手研究者の研究活動促進のために新しい方策を考えます。また、グローバル化を加速するために、本会学術集会での英語発表件数の増加、本会がホストとなっている **WANS (World Academy of Nursing Science)** との連携を深めます。これらは若手研究者活動推進計画答申として2019年度中にまとめます。  
さらに、今期中に代議員経験者に若手研究者育成の現状と課題についてアンケートを実施し、育てる立場のシニア研究者の貢献方法も併せて検討する予定です。

実は、私の学会発表デビューは本学会の第2回学術集会（1982年）でした。先達から多くの質問を頂き、答えられない不甲斐なさもありましたが、確実に次の研究へのモチベーションとなりました。1982年の入会ですから私の会員番号は278です。現在9,000人を超える学会員となり、あの頃と比べると隔世の感があります。発表以降37年間、私は本会をこよなく愛してきました。それは、この学会が常に新しい理論や方法論についての情報を提供してくれたからです。特に若い時代には、「今度の科学学会ではどんな新しい看護学が学べるのだろう」といつもワクワクしたことを覚えています。

黎明期といわれた時代から看護学を牽引してきたこの歴史ある学会が、時代の要請に答えるべき新しい看護学の情報を発信することで、**ワクワク感**をもつことができる若手研究者を増やすことが私の夢です。

最後になりますが、令和の日本がはじまり、**Society 5.0** 時代という目まぐるしく世界が変わる情勢の中、看護学の発展をもって国民の健康と福祉に貢献するという本学会の基本理念を貫くために、

変化を恐れることなく、  
変化を受け入れるだけでなく、  
変化を起こす学会であり続けたいと思います。

# 総務報告

## 1. 会員推移 (2019年4月1日～2019年10月31日)

### 1) 正会員数増減

#### ①2019年4月1日正会員数

8,913名 = 2019年3月31日正会員数9,496名 - 2019年度資格喪失者583名  
(自主退会330名、会費未納253名)

#### ②2019年度の入会者

799名 = 新規入会726名 + 再入会73名

#### ③2019年度の死亡喪失者

3名

#### ④会員区分の変更

1名 (正会員から名誉会員)

### 2) 賛助会員増減

なし

### 3) 名誉会員

承認 1名  
物故者 1名

### 4) 2019年10月31日現在 会員数

正会員	9,708
名誉会員	16
賛助会員	5
<b>会員総数</b>	<b>9,729</b>

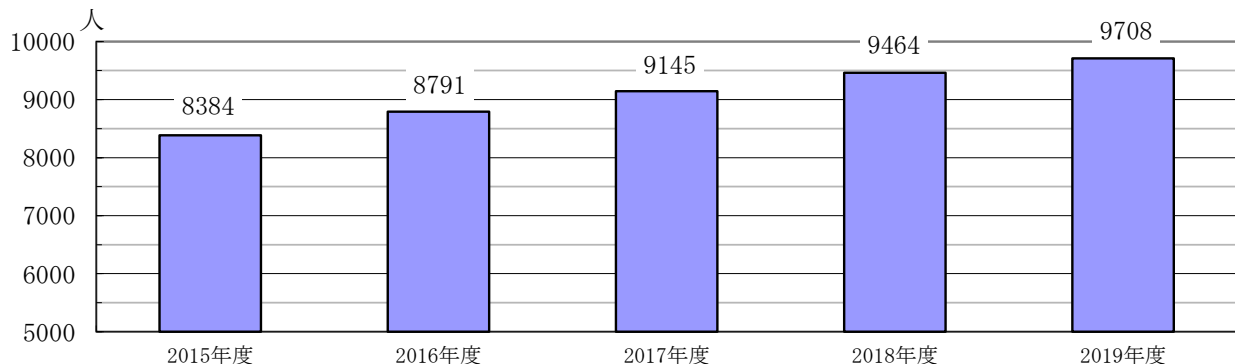
## 2. 地区別正会員数 (2019年10月31日 会員数9,708)

地区	都道府県	正会員数	地区	都道府県	正会員数	地区	都道府県	正会員数	
北海道 405	北海道	405	北陸	富山	90	九州・沖縄	福岡	476	
				石川	178		佐賀	50	
東北 595	青森 岩手 宮城 秋田 山形 福島	139 82 187 69 67 51	東海	福井	73		長崎	65	
				静岡	210		熊本	81	
				愛知	511		大分	52	
				岐阜	199		宮崎	66	
				三重	156		鹿児島	51	
				近畿 A	603		沖縄	99	
関東 A 780	茨城 栃木 群馬 埼玉	147 119 173 341	近畿 B	大阪	555		宛先不明者		21
				兵庫	555		合計		9,708
				滋賀	109				
				京都	260				
関東 B 1079	千葉 神奈川	513 566	中国・四国	奈良	91				
				和歌山	47				
東京 A 686	※1	686		鳥取	45				
				島根	67				
東京 B 801	※2	801		岡山	180				
				広島	282				
甲信越 318	新潟 長野 山梨	120 115 83		山口	45				
				徳島	65				
				香川	58				
				愛媛	108				
			高知	151					

※1 千代田区、中央区、港区、台東区、文京区、北区、荒川区、足立区、葛飾区、墨田区、江戸川区、江東区、品川区、大田区、島しょ、海外

※2 渋谷区、目黒区、世田谷区、新宿区、中野区、杉並区、豊島区、板橋区、練馬区、多摩地域

## 3. 正会員数の推移 (年度別)



公益社団法人日本看護科学学会 2019年度委員会名簿

※所属機関名は2019年11月15日現在の会員登録データに基づいています。

委員会	役職・担当	氏名	所属機関名
和文誌編集	委員長/編集長	宮下光令	東北大学大学院
	編集長	春名めぐみ	東京大学大学院
	編集長	河野あゆみ	大阪市立大学大学院 看護学研究科 在宅看護学領域
		宇佐美しおり	四天王寺大学
		江本りナ	日本赤十字看護大学
		高井ゆかり	群馬県立県民健康科学大学
		玉木敦子	神戸女子大学
		成瀬昂	東京大学大学院
		長谷川真澄	札幌医科大学大学院
		春山早苗	自治医科大学院
		松井優子	公立小松大学院
		宮本有紀	東京大学大学院
		森本美智子	岡山大学大学院
		落合亮太子	横浜市立大学
		梶井文子	東京慈恵会医科大学院
		キタ幸子	東京大学大学院
		酒井明子	福岡大学大学院
		佐藤伊織	東京大学大学院
		鶴若麻一輝	聖路加国際大学院
		新井小紀	名古屋大学大学院
	細田泰子	大阪大学大学院	
	山勢博彰	大阪府立大学大学院	
	師岡友紀	山口大学大学院	
	吉田美香	大阪大学大学院	
英文誌編集	委員長	WILLIAM L. HOLZEMER	Rutgers, The State University of New Jersey, School of Nursing
	理事	堀内成子	聖路加国際大学
		深堀浩樹	慶應義塾大学
		北岡和代	公立小松大学
		グライナー智恵子	神戸大学大学院
		野口真弓	日本赤十字豊田看護大学
		前田ひとみ	熊本大学
		操華子	静岡県立大学
		若村智子	京都大学大学院
		池田理恵子	岡山県立大学
		石川陽子	首都大学東京
		石原逸子	神戸市看護大学
		梅田麻希	兵庫県立大学
		加藤憲司	神戸市看護大学
		グレッグ美鈴	神戸市看護大学
		小林京子	聖路加国際大学院
		コリ一紀	北海道大学大学院
		齋藤あや	新潟大学
		鈴木美穂	新聖路加国際大学
		月野木ルミ	日本赤十字看護大学
	中村美鈴	東京慈恵会医科大学院	
	深井喜代子	東京慈恵会医科大学院	
	松谷美和子	国際医療福祉大学	
	丸山川昭や	大阪大学	
	山崎あけみ	大阪大学	
	江藤宏美	大阪大学	

委員会	役職・担当	氏名	所属機関名
表彰論文選考	委員長 理事 理事	亀井智子 宮下光令 堀内成子 赤澤千春 牛久保美津 野間口千香 長谷川真澄	聖路加国際大学大学院 東北大学大学院 聖路加国際医科大学 大群馬大 宮崎医科大学
	会計	堀浩樹 久保暢子 大江真琴 武村雪絵 小池智子 新井福郁子 廣岡佳代 福井小紀 五十嵐歩	慶應義塾大学大学院 聖路加国際大学大学院 東京大学大学院 慶應義塾大学大学院 大阪大学大学院 大東大
看護学 開発・標準化	委員長 理事	須釜淳子 真田弘美 石橋みゆき 大鎌倉やい 山田雅一 才藤栄夫 中野村岳志	金沢大学大学院 東京大学大学院 千葉大学大学院 聖路加国際大学大学院 日本赤十字豊田看護大学 聖路加国際医科大学 藤田医科大学 京都女子医科
	外部委員 外部委員 外部委員	仲上豪二 田中久保真左 大坂梨福直 長谷川恵一 水野田慎尚 吉永田裕紀 麦	東京大学大学院 京口県立大学 聖路加国際大学 東京大学 福岡大学 自治医科大学 徳京崎大 東大
国際活動推進	委員長	池田真理 片田範子 金井PAK雅子 高井ゆか 竹之内沙弥香 中山洋子 グレッジ美鈴子 小林美鈴子 成瀬和理子 柳川みや紀	東京女子医科大 関西医科大学 関東学院大 群馬県立健康科学大 京都大学医学部附属病院 高知県立看護大 神戸市看護大 聖路加国際医科大 東京慈恵医科大 東大 愛知大 大阪大 東大
	会計	安酸史子 和住佳代子 大小野博弘 長布谷麻耶 瀬戸奈津	関西医科大学 西大 兵庫大 京女医科大 西
看護学 学術用語検討	委員長 会計	安酸史子 和住佳代子 大小野博弘 長布谷麻耶 瀬戸奈津	関西医科大学 西大 兵庫大 京女医科大 西

委員会	役職・担当	氏名	所属機関名
社会貢献	委員長	鈴木みずえ 大久保暢子 大原良子 木戸芳史 中田弘子 会 計 鈴木美奈	浜松医科大学 聖路加国際大学 愛知県立大学 浜松医科大学 石川県立看護大学 浜松医科大学
	委員長	田中マキ子 内藤知佐子 遠藤みどり 法橋尚宏 水戸優子 会 計 丹 佳子	山口県立大学院 京都大学医学部 山梨県立大学 神奈川県立保健福祉大学 神奈川県立大学 山梨県立大学
看護倫理検討	委員長	樋之津淳子 會田信輝 大日向文江 村井都昌子 会 計 古武富貴久子	札幌市立大学 札幌医科大学 札幌医科大学 札幌医科大学 札幌医科大学
	委員長 理事	鈴木みずえ 仲上豪二朗 會田信よみ 麻原きはる 会 計 片山義一 外部委員 大磯	浜松医科大学 東京大学大学院 信州大学 聖路加国際大学 浜松医科大学 浜松医科大学 法学（医師・弁護士）
研究倫理審査	委員長 副委員長	岡谷恵子 高田早苗 鄭佳紅 外部委員 隈本邦彦 外部委員 戸塚実緒 外部委員 友納理緒	一般社団法人日本看護系大学協議会 一般財団法人日本看護学教育評価機構 青森県立保健大学 江川大 長野県立こども病院 土肥法律事務所
	委員長	永田智子 宇佐美しおり 河原宣理 近藤麻篤志 会 計 松永本千恵	慶應義塾大学 慶應義塾大学 慶應義塾大学 慶應義塾大学 慶應義塾大学 慶應義塾大学
総務	委員長 理事	永池田智子 城田真理恵 丸 瑞	慶應義塾大学 慶應義塾大学 慶應義塾大学 慶應義塾大学 慶應義塾大学 慶應義塾大学
選挙管理	委員長	青木きよ子 黒田久美子 小松万喜子 会 計 紺家千津子 町浦美智子	順天堂大学 千葉大学 愛知県立看護大学 石川県立看護大学 武庫川女子大学

# 公益社団法人日本看護科学学会 理事会報告

(2019年4月1日～11月29日)

## 2019年度第1回理事会

日 時：2019年5月26日（日） 13：00～17：30

場 所：日本看護科学学会事務所（東京都文京区本郷3-37-3 富士見ビル201号室）

出席者：理事15名、監事1名、第39回学術集会会長、選挙管理委員会委員長

### 〈審議事項〉

1. 第39回 日本看護科学学会学術集会(JANS39)の準備状況
2. 選挙報告
3. 申し合わせ事項の一部変更について
4. 総務会からの提案
5. 2019年6月定例社員総会の議案の承認と進行分担表の確認
6. 各委員会からの報告および審議事項
  - 1) 総務委員会
  - 2) 和文誌編集委員会
  - 3) 英文誌編集委員会
  - 4) 研究・学術情報委員会
  - 5) 国際活動推進委員会
  - 6) 看護学学術用語検討委員会
  - 7) 看護倫理検討委員会
  - 8) 社会貢献委員会
  - 9) 表彰論文選考委員会
  - 10) 広報委員会
  - 11) 若手研究推進委員会
  - 12) 利益相反委員会
  - 13) 研究倫理審査委員会
  - 14) 看護ケア開発・標準化委員会
  - 15) 災害看護支援委員会
  - 16) 他団体との連携について
    - ・ 日本看護系学会協議会
    - ・ 看護系学会等社会保険連合(看保連)
7. 入会希望者の承認
8. その他

## 2019年度第2回理事会

日 時：2019年6月16日（日） 10：00～10：55

場 所：AP 東京八重洲通り 11階 O ルーム

（東京都中央区京橋1丁目10番7号 KPP 八重洲ビル11階）

出席者：理事15名、監事2名、第40回学術集会会長

### 〈審議事項〉

1. 第40回日本看護科学学会学術集会(JANS40)の準備状況
2. 総務会からの報告
3. 2019年6月定例社員総会議案について
  - 1) 平成30年6月定例社員総会資料の確認
  - 2) 議事進行および役割分担の確認
4. 申し合わせ事項の一部変更等、前回理事会からの継続審議
5. 入会希望者の承認

## 2019年度臨時理事会

日 時：2019年7月11日（木） 17：00～20：30

場 所：日本看護科学学会事務所（東京都文京区本郷3-37-3 富士見ビル201号室）

出席者：理事14名、監事1名、第40回学術集会会長

### 〈審議事項〉

1. 第40回日本看護科学学会学術集会の準備状況
2. 今期理事会方針について
3. 今後の理事会日程の確認と2020年6月定例社員総会日程について
4. 会務分掌案および委員の承認
5. 2019年度予算・事業計画の確認
6. 前期理事会からの継続審議(委員会以外)
7. 各委員会からの報告および審議事項
8. その他
9. 入会希望者の承認

## 2019年度第3回理事会

日 時：2019年8月30日（金） 14：00～17：50

場 所：日本看護科学学会事務所（東京都文京区本郷3-37-3 富士見ビル201号室）

出席者：理事12名、監事2名、第39回学術集会会長、選挙管理委員長

### 〈審議事項〉

1. 第39回日本看護科学学会学術集会の準備状況



2. 総務会からの提案について（継続審議）
3. 会計報告（各委員会予算執行状況）
4. 各委員会からの報告(予算含む)および審議事項と委員の承認について
5. 11月社員総会の招集及び議事次第(案)並びに欠席者の議決権行使方法の確認
6. 第39回学会総会の招集及び議事次第(案)の確認
7. 入会希望者の承認

#### **2019年度第4回理事会**

日時：2019年11月1日（金） 14：00～17：00

場所：日本看護科学学会事務所（東京都文京区本郷3-37-3 富士見ビル201号室）

出席者：理事14名、監事2名、第40回学術集会会長

##### **〈審議事項〉**

1. 第39回日本看護科学学会学術集会（JANS39）の準備状況
2. 第40回日本看護科学学会学術集会（JANS40）の準備状況
3. 総務会からの報告・提案
4. 11月社員総会の議案の承認、進行分担表の確認
5. 第39回学会総会の議案の承認、進行分担表の確認
6. 会計報告（2019年度委員会活動費執行状況）
7. 各委員会からの報告および審議事項
8. 入会希望者の承認

#### **2019年度第5回理事会**

日時：2019年11月29日（金） 14：00～16：00

場所：ホテル金沢 藤の間（石川県金沢市堀川新町1番1号）

出席者：理事15名、監事2名

##### **〈審議事項〉**

1. 総務会からの提案（継続審議含む）
2. 2019年11月社員総会の資料と進行分担表の確認
3. 第39回学会総会の資料と進行分担表の確認
4. 各委員会からの審議事項
5. 入会希望者の承認

# 委員会活動報告

(2019年1月～11月)

## (1) 和文誌編集委員会

学会誌（日本看護学会誌）の発行、投稿の促進、投稿原稿の受付および査読の依頼、採否の決定などを実施。

- 日本看護科学会誌 39 巻（電子ジャーナル）の発刊
  - ・ 2019年1月以降の投稿論文数：114論文（2019年10月25日現在）
  - ・ 2016年1月1日～2019年10月25日の和文誌投稿採択状況の分析を行った。
- 7月より編集委員を刷新し、新和文誌編集委員会となった。3人編集長体制に移行した。
  - ・ 3人編集長体制に伴い査読過程の変更とそれに伴う投稿規程の変更をした。
  - ・ 8月24日に第1回編集委員会を開催し、現状について共有し、今後の委員会活動の方向性について議論した。
  - ・ 専任査読委員の改選があり、10月より新専任査読委員体制で実施している。
  - ・ そのほか、若手支援策など適宜メーリングリストで意見交換しながら進めている。
  - ・ 投稿規定、査読ガイドラインの改訂を検討中である。
- 表彰論文選考に参画した。
- 研究論文投稿に関する不正行為防止のためのガイドラインをアップロードした（2019（平成31）年3月22日HPにアップ）
- 第39回日本看護科学学会学術集会において、論文投稿に関する不正行為をテーマとした和文誌編集委員会企画の交流集会を開催する。

## (2) 英文誌編集委員会

日本から世界へ学術情報を発信するため2004年から英文誌（Japan Journal of Nursing Science「JJNS」）の発行を開始、2014年からはonline-only journalとして、年4回の発行を実施。またJJNSセミナーも開催。

### ① Japan Journal of Nursing Science の発行

- ・ Japan Journal of Nursing Science Vol.16 をオンラインで発刊した（計503ページ）。
- ・ 2019年1月以降の投稿論文数は、402編であった（2019年10月22日現在）
- ・ 表彰論文選考に参画した。
- ・ JANS39で、JJNS投稿コンサルテーションを実施する。
- ・ 2018年のimpact factorは、0.663であった（2019年6月発表による）。

### ② JJNS セミナーの開催

- ・ JJNS セミナー：Improving Your Success at Publishing in English 2019を開催する（2019年11月16日）。

### ③ その他

- ・ 表彰論文選考に参画した。

- ・ Holzemer 編集長来日のもと、英文誌編集委員会を開催した（2019年7月7日）、更に11月15日に開催の予定。

### (3) 表彰論文選考委員会

日本看護科学学会が発行する和文誌と英文誌から優秀賞、奨励賞に相応しい表彰候補論文を選考し、学会として表彰論文の推薦を実施。また、他組織からの表彰に該当する候補者の推薦も行う。

- ・ 優秀賞、奨励賞論文を審査・選考し、理事会にて承認を得た。

#### 【優秀賞】

- ◆ Japanese Outreach Model Project for patients who have difficulty maintaining contact with mental health services :Comparison of care between higher - functioning and lower - functioning groups  
Aki Tsunoda, Yoshifumi Kido, Mami Kayama  
Japan Journal of Nursing Science (2018) Volume 15, Issue 2 (pages 181-191)

#### 【奨励賞】

- ◆ 小児がんにより長期入院している学童・思春期の子どもの気持ちに対する看護師の理解と関わり  
秋田 由美  
日本看護科学会誌 2018 年 38 巻 p.299-308)
- ◆ Patients' help - seeking experiences and delaying in breast cancer diagnosis: A qualitative study  
Mariko Oshiro, Midori Kamizato  
Japan Journal of Nursing Science (2018 Volume 15, Issue1(pages 67-76)

### (4) 研究・学術推進委員会（2019年6月より委員会名変更）

看護学の専門分野横断的研究、学際的研究、国際的研究の推進を目的に国内外の看護学研究に関する情報の収集・整理・発信を行う。また研究者ネットワーク構築の仕組みづくりと看護学研究者の研究能力向上のための事業を実施。

#### ① 委員会としての活動

- ・ Strategic Plan を踏まえた事業展開
- ・ 自らの専門性を学際的研究の中で発揮できる人材を育成するモデルの検討と提案  
第14回 JANS セミナー「国際共同研究をどのようにすすめるかー看護は世界の健康課題にどう貢献するかー」を企画した。
- ・ 教育資料(セミナー講義、資料)のアーカイブ化の継続。
- ・ 萌芽的研究課題の方向性と、研究助成実施可能性の検討。

#### ② JANS セミナーの開催

- ・ 第14回 JANS セミナー「国際共同研究をどのようにすすめるかー看護は世界の健康課題にどう貢献するかー」を開催した（2019年6月16日 AP 東京八重洲通り）。  
参加人数は、会場受講 110 名（会員 74 名、非会員 5 名）、Web 受講 144 名（会員のみ）であった。

## (5) 看護ケア開発・標準化委員会

研究活動を推進して若手研究者を育成し、優れた研究成果を国内外に発信していくことを目的に、研究成果のエビデンスに基づき、問題解決に向けた看護技術（看護ケア）を開発・標準化することで Nursing Science の構築と、臨床や在宅の場で医療を必要とする人々へ還元できる仕組づくりを目指す。

- ① モデル事業として、Minds 診療ガイドライン作成の手引き 2014 に準拠した「摂食嚥下時の誤嚥・残留アセスメントに関する看護ケアガイドライン」開発・標準化を目標とする。
  - ・2019年3月31日 統括委員会を開催し、進捗を確認した。
  - ・2019年9月29日 統括委員会を開催し、CQ1～10、エビデンス総体、推奨作成プロセスについて決定した。
  - ・2019年10月31日 ガイドライン作成グループ会合を開催し、ケアガイドライン草案作成を開始した。
- ② 新たなケアガイドライン作成グループを設立し、活動を支援する。
  - ・2019年8月30日 理事会にて公募要項を審議
  - ・2019年 理事会承認後～10月20日 オンライン、会員一斉メールにて公募
  - ・2019年11月1日 新たな作成グループについて審議

## (6) 若手研究者活動推進委員会（2019年6月より委員会名変更）

日本学術会議若手アカデミーをはじめ、国内外の多学問分野の若手研究者と積極的な交流を図る。また、学術集会での交流集会の定例的な企画・運営を通して若手研究者を育成し、将来的な看護学の発展に寄与する。

### ① 委員会としての活動

- ・エリア・コーディネーター全体検討会を2019（平成31）年3月29日に東京で開催し、委員を含めた23名が参加し、「未来の看護学および学術のあり方」について議論を交わした。
- ・「若手の会」第1回中四国エリア検討会を2019（平成31）年3月10日に開催し、3名の参加があった。第2回九州エリア検討会を同年3月21日に開催し、11名の参加があった。
- ・JANS 若手メーリングリストより情報の発信をした。登録者数は計685名であり、当委員会企画の事前予告・事後報告ならびに登録メンバーによる研究・研修活動の投稿が行われた。
- ・日本学術会議若手アカデミーからの情報を発信するとともに、情報提供を行った。

### ② JANS セミナーの開催

- ・第13回JANSセミナー「実践の疑問からリサーチクエスションへー研究的思考を身につけよう」を2019（平成31）年3月9日 AP 東京八重洲通りで開催した。参加人数は、会場受講186名（会員133名、非会員53名）、Web 受講352名（会員のみ）であった。

## (7) 国際活動推進委員会

国際的な看護学研究機関とのネットワークの構築を実施。

また、世界看護科学学会(World Academy of Nursing Science 「WANS」)の事務局運営も担当。

## ① 委員会としての活動

- ・ JANS ホームページ内の異文化看護データベースを見直し、データベースのあり方を再検討した。その結果、これまでの異文化看護データベースの枠組を基にデータの内容（項目の枠組）や情報提供のあり方を再検討し、高齢者や終末期に関する項目などを追加した枠組を設定した。
- ・ 2019（平成 31）年 11 月末までに、カンボジア、スリランカ、中国、台湾、ベトナム、モンゴル、ラオス、フィジー、ザンビアについて新しい内容に更新した。バングラデシュ、セネガル、インドネシア、ネパールについては、掲載の準備を進めている。
- ・ JANS40 の英語セッションでの発表を促進するための委員会企画セミナー「国際学会オーラルプレゼンテーションへの第一歩（仮）」について検討している。

## ② 世界看護科学学会（World Academy of Nursing Science : WANS）の事務局としての活動

- ・ 世界看護科学学会（WANS）事務局業務を引き続き実施（HP 維持管理含む）。
- ・ 世界看護科学学会（WANS）事務局として会員への連絡調整等を実施するとともに、2020 年 2 月 28 日-29 日に大阪国際会議場（日本）で開催することが決まった WANS 第 6 回学術集会の準備を支援している。
- ・ また、会期中に開催する理事会の会務も行っている。

## (8) 看護学学術用語検討委員会

- ・ 対面会議を 2019 年 10 月 22 日開催した。
- ・ 第 13 期・第 14 期の報告書で提言されている用語検討の方針 5 つを踏まえて、看護学学術用語検討委員会の役割と今後の方向性について確認。
- ・ 病院完結型医療から地域完結型医療へとシフトしている社会の変化に応じて、再定義が必要な用語、新たに定義づけが必要な用語、看護実践を推進する概念等について意見交換。
- ・ 検討すべき用語を選定し、第 11 期が提唱した「看護学学術用語の検討を統括するシステム」をモデル的に運用し、看護学学術用語の持続的・発展的検討のためのシステムについて検討予定。

## (9) 社会貢献委員会

- 一般市民を対象に看護学を通じた社会への貢献やその方策の研究、普及を目的に、学術集会開催時に「市民フォーラム」や次世代の看護学研究者育成となる「ナーシング・サイエンス・カフェ」を実施。
- ・ JANS39 において、「ナーシング・サイエンス・カフェ」（11 月 30 日開催）の企画・運営を行う。  
テーマ：「多様な場で働き方を魅せられる看護職の可能性」
  - ・ JANS39 において、市民フォーラム（12 月 1 日）の企画・運営を行う。  
テーマ：「北陸の伝統発酵食品の文化と健康」
  - ・ JANS としての社会貢献のあり方を検討する（「ナーシング・サイエンス・カフェ」の講演内容を録画し、日本看護科学学会 HP で配信する）。

## (10) 広報委員会

日本看護科学学会の広報活動を担当、委員会成果物の公表、学術集会の周知（プレスリリース等の作成・配布、当日の記録の保存、学会ホームページの定期的な更新や維持管理等を実施。

- ・ 本会公式ウェブサイトの内容の更新と整理を事務所と協力のうえ定期的に行った。
- ・ 本会公式ウェブサイトのリニューアルを行った。
- ・ JANS39 広報活動として、市民フォーラム、ナーシング・サイエンス・カフェのフライヤーを作成した。学術集会の記録を行う。
- ・ JANS 研究論文を実践へトランスレーションする企画「看護研究の玉手箱」において、平成 30 年度表彰論文の掲載および平成 28 年度表彰論文の追加掲載を行った。

JANS 英文フライヤーの作成を開始した。

## (11) 看護倫理検討委員会

看護学が関連する研究・教育・臨床における倫理的課題の整理および即時的対応を目的に、研究者のモラル向上や看護学が関連する倫理的な社会事象に対する情報収集・提供と学会としての対応策の検討、社会に向けた見解の発信を実施。

- ・ 日本学術会議「軍事的安全保障研究に関する声明」および日本看護系学会協議会の見解を受けて、一日本看護科学学会の見解について検討し、その結果をホームページに掲載した。
- ・ 研究倫理の遵守及び研究活動不正防止について啓発活動を行う。
- ・ 看護学が関連する倫理的な社会事象に対する情報収集と対応案を検討する。

## (12) 利益相反委員会

役員等の潜在的利益相反判定を実施し、該当の案件について判定し、不適切な事象が起こらないようマネジメントする。また、重大な COI 状態が生じた場合は、本委員会が諮問し答申に基づき改善措置を実施する。

- ・ 和文誌・英文誌投稿時の利益相反申告を引き続き実施した。
- ・ 第 39 回学術集会会長、各講演者および学術集会演題登録時の利益相反申告を実施した。
- ・ セミナー等の講師の利益相反申告を実施した。
- ・ 学術活動の利益相反に関する本学会の細則等の見直しを行うことを計画した。
- ・ JANS39 で交流集会へ参画する（12 月 1 日）。

## (13) 研究倫理審査委員会

学会員による人を対象とした看護研究が、倫理的配慮のもとに行われるかどうかを審査する。

- ・ 1 件の申請があり、簡易審査を行った。

## (14) 災害看護支援委員会

- ・ 2019年6月18日の「山形県沖地震」や同年9月9日の「台風15号」および10月12日の「台風19号」等では、日本看護系学会協議会からの協力要請はなく、ホームページに防災学術連携体のリンクを貼る対応のみ実施した。
- ・ 日本看護系学会協議会の災害看護連携会議に参加して情報収集を行い、他の看護系学会との連携のもとでの災害時活動内容を検討する予定であったが、今年度はこれまで災害看護連携会議の開催はない。
- ・ 日本学術会議と防災学術連携体が主催する「日本学術会議主催学術フォーラム・第7回防災学術連携シンポジウム」に傍聴参加した（2019（平成31）年3月12日 日本学術会議講堂）。

## (15) 総務委員会

学会事務所の運営、会員の入会審査、会員管理を実施

（会員数等については、総務報告を参照）

- ・ 入会審査、会員管理はITの導入による合理化と効率化を推進、併せて個人情報の扱いにも細心の注意を払った。
- ・ 学会事務所は、社会への本会の窓口であり、学会管理や他の委員会活動を支える拠点と意識して運営・管理を心掛けた。
- ・ 事務所職員との緊密な連携をとり、情報共有に努めた。併せて定期的な事務所の訪問と職員面談を実施し、業務遂行状況の把握をした。
- ・ 理事会、社員総会、学会総会に関し、役員確認に先立って議事録の確認を行うことで、役員の確認業務軽減と正確な記載内容の徹底に努めた。

## (16) 他機関との連携活動

### ① 日本看護系学会協議会（JANA）

- ・ 2019年度総会に出席した。  
日時：2019年6月23日（日）  
場所：日本赤十字看護大学 301教室  
議案：平成30年度活動報告、各事業報告、2019年度事業案および予算案、  
事業展開を支える組織体制、新理事・新監事の承認ほか
- ・ 医療事故報告制度に関する支援の一環として、一般社団法人日本医療安全調査機構からの依頼により、3名の会員を個別調査部会員に推薦した。

### ② 看護系学会等社会保険連合（看保連）

- ・ 看保連2019年度研究助成への応募11件を審査し、2件を承認した。
- ・ 三保連シンポジウムが3月29日（金）に開催され、委員2名が参加した。
- ・ 2019年度社員総会が2019年4月26日（金）に開催され、委員1名が参加した。

## 第1号議案

# 公益社団法人 日本看護科学学会 2020年度事業計画（案）

（2020年4月1日～2021年3月31日）

### (1) 学術集会

- ・ 第40回日本看護科学学会学術集会開催  
第40回学術集会会長：萱間真美（聖路加国際大学）  
日程：2020年12月12日（土）・12月13日（日）  
場所：東京国際フォーラム
- ・ 第41回日本看護科学学会学術集会準備  
第41回学術集会会長：百瀬由美子（愛知県立大学）  
日程：2021年12月4日（土）・12月5日（日）  
場所：名古屋国際会議場
- ・ 第42回日本看護科学学会学術集会準備

### (2) 和文誌編集委員会

- ・ 日本看護科学会誌第40巻を発行する。
- ・ 投稿規定・執筆要領等の見直しを図る。
- ・ 査読ガイドラインの見直しを含め、査読システムの効果的運用と質向上をはかる。
- ・ 学会誌への投稿を促進し、掲載数増加を図る。
- ・ 学会誌への投稿・掲載の促進および編集委員、査読者の活動を支援する教育プログラム（交流集会）を開催する。

### (3) 英文誌編集委員会

- ・ Japan Journal of Nursing Science Vol. 17を発行する。
- ・ JJNS セミナー2020を開催する。
- ・ JJNS プロモーション活動を実施する。
- ・ 出版社との契約更新内容の検討

### (4) 表彰論文選考委員会

- ・ 表彰論文の選考を行い公表する。

### (5) 研究・学術推進委員会

1. 大型研究の推進に関する事業



- 1) 看護学の学術向上を牽引する学会として若手研究者を巻き込んだ大型研究費の獲得を目指し、2021年度に学術領域変革研究(A)に申請する領域代表者候補を公募・選定し、領域代表者候補と研究・学術推進委員会が協働して研究計画を立案し、申請する。
- 2) 会員による大型研究の推進について検討する。
2. 萌芽的研究の推進について検討する。
3. 第16回JANSセミナーを開催し資料の管理を行う
4. JANS40において委員会の活動報告を行う。
5. その他、研究・学術推進に関する事業を実施する。

## **(6)看護ケア開発・標準化委員会**

- ・「摂食嚥下時の誤嚥残留アセスメントに関する看護ケアガイドライン」の草案を完成し、外部評価を受けた後、公開する
- ・新規看護ケアガイドライン作成チームを立ちあげ、CQ作成ならびにSRに着手する

## **(7)若手研究者活動推進委員会**

- ・若手研究者活動推進計画答申案の作成および今後の学会の若手研究者活動推進のための方策の明確化
- ・若手ネットワーク（Mailing list、エリア・コーディネーター、ネットワークサロン、学術集会での交流集会等）の活用方法の検討
- ・国際化の推進
- ・若手会員増に向けたJANSセミナーの実施
- ・広報活動（学会ウェブサイトの更新、リーフレットの作成）の充実

## **(8)国際活動推進委員会**

### **1. 国際学会での研究発表の促進施策**

- 1) JANS40の英語セッション、世界看護科学学会(WANS)および東アジア看護研究者フォーラム(EAFONS)等において、若手研究者(大学院生含む)の発表促進を図るためのセミナーを開催する。
- 2) WANS事務局として2021年度に開催する第7回WANS学術集会の開催を支援する。  
WANS会員の拡大を図り、HPの充実、維持管理を行う。

### **2. 国外研究活動の推進**

- 1) JANS40で委員会主催のセミナーを開催する。  
内容は、国外の研究活動(研究・ガイドライン策定など)経験者からの講演、交流、ネットワーキングを企画予定。
- 2) 若手研究者を中心に短期研究留学やプロジェクト参画について、学会からの助成につい

て検討（若手研究者活動推進委員会との協同）

3. JANS URL 内「異文化看護データベース」については、今後のあり方を引続き検討する。

### (9) 看護学学術用語検討委員会

- ・看護学を構成する重要な用語集の一部改訂
- ・前回までに検討された用語の改訂もしくは一部追加の検討
- ・学術用語の継続的な維持管理システムの構築の検討

### (10) 看護倫理検討委員会

- ・研究倫理の遵守及び研究活動不正防止について啓発活動を行う。
- ・看護学が関連する倫理的社会的社会事象に対する情報収集と対応案を検討する。

### (11) 社会貢献委員会

- ・第 40 回学術集会に向けた社会貢献事業を検討し準備する。
- ・第 40 回学術集会で「市民公開講座」を開催する。
- ・JANS としての社会貢献のあり方を検討する（「ナースング・サイエンス・カフェ」について、中高生が参加しやすい時期での開催を検討するなど。）

### (12) 広報委員会

- ・学会広報媒体の作成・維持・管理（①HP の維持・管理 ②他委員会との連携による学会活動の広報 ③学会広報媒体の評価と改善）を行う。
- ・WANS に関連した広報（①WANS 学術集会の広報 ②WANS 学術集会における JANS の広報）の仕方について検討する。
- ・学術集会に関する広報活動（①次回学術集会企画委員会と社会貢献委員会との連携による学術集会の広報活動、②学術集会の記録）を行う。
- ・研究を実践へトランスレーションするための広報「看護研究の玉手箱」による表彰論文の紹介を行う。また、JANS40 における交流集会の開催について検討する。
- ・HP（邦文・英文）について検討を行う

### (13) 利益相反委員会

- ・看護学が関連する倫理的社会的社会事象に対する情報収集と対応案を検討する。
- ・研究倫理の遵守及び研究活動不正防止について啓発活動を行う。

#### **(14) 研究倫理審査委員会**

- ・申請があり次第、倫理審査（メール審査、委員会招集審査のいずれか）を行う。
- ・その他、研究倫理審査に関わる事項の検討をする。

#### **(15) 災害看護支援委員会**

看護系学会としての災害時活動内容について、日本看護系学会協議会の災害看護連携会議等に参加して情報収集を行い、災害時の活動内容について検討するとともに、必要時には情報発信等の活動を行う。

#### **(16) 総務委員会**

- ・入会審査を行う。
- ・会員管理データシステムの稼働状況を把握し、会員向けのコミュニケーションサービス（一斉メールの配信、学術集会・セミナー参加登録、Web 選挙等）の課題を把握し改善に努める。
- ・本会の目的を達成し、安定した事務所運営が可能な職員体制確立のため、各職員が立てた業務目標についてその達成度を評価・査定する。各職員が現在の所掌業務に関するマニュアルを整備・見直しを行うよう促し、より一層の事務所機能の安定化、効率化を図る。
- ・月に1回程度事務所を訪問し、事務所運営に関する課題発見を行うとともに、業務の改善が図られるよう職員のモチベーションの維持・向上に努める。事務所職員が各委員会委員長との連携を強化し、各事業へのサポート機能を充実できるよう働きかける。

#### **(17) 選挙管理委員会**

- ・2021年選出理事候補者選挙準備

#### **(18) 他機関との連携**

下記の各機関と連携し、依頼事項に対応する。

- ① 日本看護系学会協議会
- ② 日本学術会議
- ③ 看護系学会等社会保険連合（看保連）

### ③ 日本学術会議

日本学術会議から提供のあったニュース・メールを役員に提供

### ④ その他の機関

対応すべき事案はなかった。

## (17) 選挙管理委員会

- ・ 2019年1月15日（火）から29日（火）に代議員の電子投票を実施、第3回選挙管理委員会を1月30日（水）に開催、立会人のもと開票を行い、当選通知を郵送した。
- ・ 第4回選挙管理委員会を2019年2月27日（水）に開催し、代議員名簿の作成と理事会への報告を実施。本委員会で新代議員が決定したため、理事選挙に関する選挙人名簿と被選挙人名簿の作成、投票手順、今後のスケジュール等について確認を行った。
- ・ 3月8日（金）から23日（土）に役員（理事・監事）の電子投票を実施、第5回選挙管理委員会を3月24日（日）に開催、立会人のもと開票を行い、投票通知を郵送した。
- ・ 第6回選挙管理委員会を4月21日（日）に開催し、役員（理事・監事）名簿の作成を行い、5月26日（日）の第1回理事会に提出した。

## 2020年度 収支予算書(案)

2020年 4月 1日 から2021年 3月 31日 まで

科 目	補足	2020年度 予算額 (2020. 4. 1～ 2021. 3. 31)	2019年度 予算額 (2019. 4. 1～ 2020. 3. 31)	差異
<b>I 事業活動収支の部</b>				
1. 事業活動収入				
①特定資産運用収入		500	500	0
特定資産受取利息収入		500	500	0
②会費収入		101,300,000	98,300,000	3,000,000
正会員会費収入	※1	101,000,000	98,000,000	3,000,000
賛助会員会費収入	※2	300,000	300,000	0
③学会誌収入		1,133,000	1,131,000	2,000
学会誌販売収入		429,000	495,000	△ 66,000
著作権料収入	※3	704,000	636,000	68,000
④寄附金・助成金収入 (学術集会含まず)	※4	250,000	250,000	0
⑤セミナー収入		4,000,000	4,355,000	△ 355,000
JANSセミナー	※5	2,870,000	3,345,000	△ 475,000
JJNSセミナー	※6	1,130,000	1,010,000	120,000
⑥雑収入		500	500	0
受取利息収入		500	500	0
⑦学術集会収入		70,754,000	58,022,000	12,732,000
学術集会参加費収入		58,040,000	42,600,000	15,440,000
事前登録会員 (11,000円)		22,000,000	20,000,000	2,000,000
事前登録非会員 (14,000円税込)		13,440,000	5,400,000	8,040,000
事前登録学部生	※7	0	210,000	△ 210,000
当日登録会員 (13,000円)		13,000,000	12,000,000	1,000,000
当日登録非会員 (15,000円税込)		9,600,000	4,900,000	4,700,000
当日登録学部生		0	90,000	△ 90,000
寄附金・助成金収入		1,000,000	4,940,000	△ 3,940,000
寄附金		1,000,000	500,000	500,000
助成金		0	4,440,000	△ 4,440,000
広告販売収入		10,834,000	9,732,000	1,102,000
企業展示出展料		6,765,000	5,055,000	1,710,000
広告掲載料		1,759,000	2,085,000	△ 326,000
ランチョンセミナー		2,310,000	2,592,000	△ 282,000
懇親会収入		880,000	750,000	130,000
<b>事業活動収入合計 (I a)</b>		<b>177,438,000</b>	<b>162,059,000</b>	<b>15,379,000</b>
2. 事業活動支出				
①事業費支出		114,164,000	99,329,000	14,835,000
学会誌発行費支出		25,811,000	25,927,000	△ 116,000
和文誌編集費支出	※8	7,191,000	6,747,000	444,000
英文誌編集費支出	※9	18,620,000	19,180,000	△ 560,000
編集活動費支出		1,555,000	1,810,000	△ 255,000
和文誌編集委員会費支出	※10	710,000	950,000	△ 240,000
英文誌編集委員会費支出		845,000	860,000	△ 15,000
看護学術振興費支出		7,479,000	6,361,000	1,118,000
表彰論文選考委員会費支出		221,000	245,000	△ 24,000
研究・学術推進委員会費支出		860,000	856,000	4,000
看護ケア開発・標準化委員会	※11	3,000,000	580,000	2,420,000
若手研究者活動推進委員会支出	※12	818,000	1,485,000	△ 667,000
国際活動推進委員会費支出	※13	1,030,000	1,685,000	△ 655,000
看護学術用語検討委員会費支出		815,000	775,000	40,000
看護倫理検討委員会費支出		535,000	535,000	0
災害看護支援委員会支出		200,000	200,000	0
研究学術活動支援費支出		4,292,000	4,762,000	△ 470,000
受賞論文表彰費支出	※14	193,000	307,000	△ 114,000
研究倫理審査委員会費		99,000	100,000	△ 1,000
JANSセミナー開催費	※15	2,870,000	3,345,000	△ 475,000
JJNSセミナー開催費	※16	1,130,000	1,010,000	120,000
社会的活動費支出		1,336,000	2,212,000	△ 876,000
社会貢献委員会支出 (市民フォーラム開催費含む)	※17	651,000	1,232,000	△ 581,000
広報委員会費支出 (公益目的事業分)	※18	685,000	980,000	△ 295,000

科 目	補足	2020年度 予算額 (2020. 4. 1～ 2021. 3. 31)	2019年度 予算額 (2019. 4. 1～ 2020. 3. 31)	差異
学術集会費支出		<b>73,691,000</b>	<b>58,257,000</b>	<b>15,434,000</b>
当年度開催学術集会	※19	70,754,000	55,022,000	15,732,000
会場費支出		28,816,000	36,128,000	△ 7,312,000
会議費支出		640,000	576,000	64,000
旅費交通費支出		3,210,000	990,000	2,220,000
消耗品費支出		491,000	755,000	△ 264,000
通信運搬費支出(プログラム送料含む)		1,454,000	1,678,000	△ 224,000
印刷製本費支出(プログラム印刷費む)		3,403,000	3,367,000	36,000
委託費支出		28,090,000	8,896,000	19,194,000
人件費支出		150,000	167,000	△ 17,000
謝金支出		1,340,000	486,000	854,000
雑支出		2,480,000	1,223,000	1,257,000
懇親会運営費支出		680,000	756,000	△ 76,000
次年度開催学術集会(準備期間)	※20	2,937,000	3,235,000	△ 298,000
会場費支出		0	0	0
会議費支出		120,000	120,000	0
旅費交通費支出		300,000	100,000	200,000
消耗品費支出		236,000	360,000	△ 124,000
通信運搬費支出(学術集会のご案内送料含む)		1,580,000	1,300,000	280,000
印刷製本費支出(学術集会のご案内印刷含む)		301,000	650,000	△ 349,000
委託費支出		400,000	500,000	△ 100,000
人件費支出		0	200,000	△ 200,000
謝金支出		0	0	0
雑支出		0	5,000	△ 5,000
<b>②管理費支出</b>		<b>60,677,000</b>	<b>61,085,000</b>	<b>△ 408,000</b>
給料手当支出	※21	24,210,000	23,630,000	580,000
福利厚生費支出		4,200,000	4,020,000	180,000
通勤費支出		1,910,000	1,900,000	10,000
退職給付支出		300,000	300,000	0
学会総会費		867,000	860,000	7,000
社員総会費	※22	4,795,000	4,426,000	369,000
理事会費	※23	3,228,000	4,450,000	△ 1,222,000
委託費支出	※24	6,276,000	6,070,000	206,000
渉外費支出		20,000	30,000	△ 10,000
旅費交通費支出	※25	30,000	384,000	△ 354,000
通信運搬費支出		1,886,000	1,950,000	△ 64,000
消耗品費支出		1,250,000	1,240,000	10,000
印刷製本費支出		9,000	77,000	△ 68,000
慶弔費支出		50,000	50,000	0
光熱水料費支出		738,000	762,000	△ 24,000
賃借料支出	※26	4,775,000	4,210,000	565,000
保険料支出		85,000	85,000	0
諸謝金支出		50,000	50,000	0
租税公課支出	※27	650,000	1,100,000	△ 450,000
負担金支出		380,000	380,000	0
修繕費支出		50,000	50,000	0
雑支出		2,374,000	2,520,000	△ 146,000
総務費支出		544,000	541,000	3,000
総務委員会費支出		10,000	15,000	△ 5,000
利益相反委員会費支出		109,000	106,000	3,000
広報委員会費支出(法人会計分)	(※18)	20,000	20,000	0
選挙費用支出	※28	405,000	400,000	5,000
<b>③その他支出</b>		<b>2,000,000</b>	<b>2,000,000</b>	<b>0</b>
資格喪失者会費支出	※29	2,000,000	2,000,000	0
<b>事業活動支出合計(I b)</b>		<b>174,841,000</b>	<b>160,414,000</b>	<b>14,427,000</b>
<b>事業活動収支差額(I a)-(I b)</b>		<b>2,597,000</b>	<b>1,645,000</b>	<b>952,000</b>

科 目	補足	2020年度 予算額 (2020. 4. 1～ 2021. 3. 31)	2019年度 予算額 (2019. 4. 1～ 2020. 3. 31)	差異
<b>Ⅱ 投資活動収支の部（資金の内部移動）</b>				
1. 投資活動収入（各積立金を取り崩し、それを資金として使用する）				
選挙積立取崩（選挙費用として使用）	※28	405,000	400,000	5,000
退職給付引当資産取崩		300,000	300,000	0
長期前払費用振替収入（事務所更新料）	※30	110,000	0	110,000
<b>投資活動収入合計（Ⅱa）</b>		<b>815,000</b>	<b>700,000</b>	<b>115,000</b>
2. 投資活動支出（目的のある積立をするために、事業活動の資金を各積立預金に振り替える）				
選挙積立預金	※31	1,000,000	1,000,000	0
退職給付引当金積立		870,000	750,000	120,000
什器備品購入支出		0	0	0
一脚償却資産購入支出		0	0	0
事務所更新料（長期前払費用）		0	108,000	△ 108,000
<b>投資活動支出合計（Ⅱb）</b>		<b>1,870,000</b>	<b>1,858,000</b>	<b>12,000</b>
<b>投資活動収支差額（Ⅱa）-（Ⅱb）</b>		<b>△ 1,055,000</b>	<b>△ 1,158,000</b>	<b>103,000</b>
<b>Ⅲ 財務活動収支の部</b>				
1. 財務活動収入				
<b>財務活動収入合計（Ⅲa）</b>		<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>
2. 財務活動支出				
<b>財務活動支出合計（Ⅲb）</b>	※32	<b>527,000</b>	<b>0</b>	<b>527,000</b>
<b>財務活動収支差額（Ⅲa）-（Ⅲb）</b>		<b>△ 527,000</b>	<b>0</b>	<b>△ 527,000</b>
<b>Ⅳ 予備費支出</b>	※33	<b>1,000,000</b>	<b>3,000,000</b>	<b>△ 2,000,000</b>
<b>当期収支差額</b>		<b>15,000</b>	<b>△ 2,513,000</b>	<b>2,528,000</b>
<b>前期繰越収支差額</b>		<b>113,853,000</b>	<b>116,366,000</b>	<b>△ 2,513,000</b>
<b>次期繰越収支差額</b>		<b>113,868,000</b>	<b>113,853,000</b>	<b>15,000</b>

- ※1 2020年4月1日時点での会員数を9,800名、新入会者・再入会者800名、資格喪失者500名と見積もり、合計10,100名分を会費収入として計上。
- ※2 ㈱日本看護協会出版会2口、㈱医学書院・㈱南江堂・㈱へるす出版・(有)ヌーヴェルヒロカワ各1口。会費1口5万円。
- ※3 和文誌・英文誌の著作権料。
- ※4 W I L E Y (J J N S 出版社)より著作者養成の取り組みに対する寄附金。
- ※5 第16回 J A N S セミナー参加費収入(131万円)、第17回 J A N S セミナーの参加費収入(156万円)。
- ※6 2020年度 J J N S セミナー参加費収入(113万円)。
- ※7 第40回学術集会の参加費収入。
- ※8 投稿論文数の増加により査読システム使用料、編集事務費を増額している。
- ※9 出版社との交渉により追加頁料金を減額している。英文誌編集長謝金は旅費交通費を含め年間260万円。
- ※10 委員会開催時の旅費交通費の見直しにより減額している。
- ※11 嚙下ガイドラインの公開および、新規ガイドライン作成チーム(2~3チーム分)の活動に関する費用を増額している。
- ※12 W E B 会議の活用により旅費交通費を減額している。
- ※13 世界看護科学学会(WANS)の開催年度ではないため関連費用を減額している。
- ※14 在庫があるので賞状ホルダー作成費用を減額している。
- ※15 W E B 受講資料のダウンロード化により印刷費用・郵送費用を減額している。。
- ※16 2020年度 J J N S セミナーの会場費を増額している。
- ※17 ナーシング・サイエンス・カフェの開催を見直し減額している。
- ※18 【広報委員会の活動費のうち、公益目的事業に関わる費用を事業費に計上している。(学術集會会期中の写真撮影費、市民フォーラムのフライヤー制作費・発送費など)。その他費用は管理費に計上している(※18)。】  
ナーシング・サイエンス・カフェの開催見直しによりフライヤー作成費用などを減額している。
- ※19 第40回学術集會に関わる開催年度の費用。(開催地：東京)
- ※20 第41回学術集會に関わる開催前年度の費用。(開催地：名古屋)
- ※21 正職員5名、パート2名(週1~3日勤務)の給与・賞与および、社会保険料、健康診断料など。
- ※22 社員総会2回(6月・12月/貸し会議室使用)。代議員交代に伴い実績に基づき旅費交通費を増額している。
- ※23 定例理事会6回(5月、6月、9月、10月、12月、2月/うち6月・12月は貸し会議室使用)。役員交代年ではないため臨時理事会2回に関する費用を減額している。
- ※24 【法人として必要】  
会計事務所(122万円)＜会計顧問料(78万)、内閣府提出書類作成料(11万)、社会保険労務士(33万円)＞、公認会計士監査報酬(36万円)、顧問弁護士(40万円)  
【学会事業に直接必要】  
会員管理システム利用料(266万円)＜基本利用料(112万)、会費コンビニ決済機能(27万)、学術集會参加登録・行事管理機能(79万)、クレジット決済機能(33万円)、アンケート機能(15万)＞、JANSホームページ年間維持更新管理料(63万円)、ホームページ英訳費用(8万円)、W E B 会議システムV-CUBE(60万円)、封入委託費(12万円)  
【事務所運営に必要】  
事務所警備委託費(21万円)

- ※25 事務所職員の出張に伴う交通費（東京開催）。通勤費は「通勤手当」費目にて別途計上。
- ※26 事務所賃借料、コピー機リース料、紙折り機リース料。ペーパーレス会議用機器のリース料を増額している。
- ※27 2018年度実績(52万円)に沿って消費税額を減額している。
- ※28 理事選挙にかかる費用。選挙積立金から取り崩して選挙費用に充当している(※28)。
- ※29 活動経費支出ではないが、会費の未納により収入が減少するため費用に計上している。決算時に正味財産増減計算書にも表示される。
- ※30 事務所契約更新料(賃借料)のうち発生主義の原則に基づき前年に「長期前払費用」として繰延べていた部分を戻す。2019年度実績(増税)に合わせた金額。
- ※31 選挙費用に充当するための積立金。2022年度の役員選挙・代議員選挙に充当する金額を毎年積立てる。
- ※32 複合機のリース債務を計上している。
- ※33 使用実績がないため減額している。



## 2020年度 収支予算書(案)

2020年4月1日から2021年3月31日

公益社団法人 日本看護科学学会

科目	公益目的事業						収益事業等			法人会計	合計
	学術振興	学会誌	学術集会	市民講座等	共通	計	広告販売	連携事業	計		
<b>I 一般正味財産増減の部</b>											
<b>1. 経常増減の部</b>											
<b>(1) 経常収益</b>											
<b>受取会費</b>											
正会員受取会費					50,500,000	50,500,000				50,500,000	101,000,000
賛助会員受取会費					300,000	300,000					300,000
<b>事業収益</b>											
学会誌収益(講演集含む)		429,000				429,000					429,000
著作権料		704,000				704,000					704,000
セミナー収益	2,870,000	1,130,000				4,000,000					4,000,000
学術集会参加費			58,040,000			58,040,000					58,040,000
広告販売収入							10,834,000		10,834,000		10,834,000
懇親会収入										880,000	880,000
<b>寄付金・助成金</b>		250,000	1,000,000			1,250,000					1,250,000
<b>雑収益</b>											
受取利息										1,000	1,000
その他の雑収入											
<b>経常収益計</b>	2,870,000	2,513,000	59,040,000		50,800,000	115,223,000	10,834,000		10,834,000	51,381,000	177,438,000
<b>① 事業費</b>											
学会誌発行費		25,811,000				25,811,000					25,811,000
受賞論文表彰費		193,000				193,000					193,000
助成金											
会場費	1,240,000	290,000	28,312,495	300,000		30,142,495	503,505		503,505		30,646,000
会議費	398,000	236,000	746,720	40,000		1,420,720	13,280		13,280		1,434,000
旅費交通費	4,737,469	1,212,873	3,455,735	606,369		10,012,446	61,576	245	61,821		10,074,267
消耗品費	507,188	154,687	1,008,716	15,361		1,685,952	22,944	10,241	33,185		1,719,137
通信運搬費	636,520	225,585	3,425,206	43,177		4,330,488	68,464	15,451	83,915		4,414,403
印刷製本費	1,132,241	150,862	3,641,400	60,111		4,984,614	64,793	73	64,866		5,049,480
委託費	2,992,412	1,300,928	29,968,218	117,125		34,378,683	51,416	51,416	102,832		34,481,515
諸謝金	446,000	150,000	1,340,000	250,000		2,186,000					2,186,000
雑費	631,008	287,311	2,995,827	29,174		3,943,320	62,782	19,449	82,231		4,025,551
賃借料	1,188,738	457,207	1,124,680	58,679		2,829,304	39,119	39,119	78,238		2,907,542
租税公課	46,769	36,878	375,461			459,108	176,551		176,551		635,659
通勤手当	475,495	182,883	449,872	23,471		1,131,721	15,648	15,648	31,296		1,163,017
退職給付費用	216,587	83,303	204,916	10,691		515,497	7,127	7,127	14,254		529,751
福利厚生費	1,045,591	402,150	989,247	51,613		2,488,601	34,409	34,409	68,818		2,557,419
光熱水料費	183,725	70,664	173,825	9,069		437,283	6,046	6,046	12,092		449,375
修繕費	12,448	4,788	11,777	614		29,627	409	409	818		30,445
火災保険料	21,161	8,139	20,020	1,045		50,365	696	696	1,392		51,757
減価償却費	135,177	52,230	125,870	6,666		319,943	4,443	4,539	8,982		328,925
渉外費											
支払負担金											
支払寄付金											
給料手当(委員会等件費含む)	6,477,087	2,348,111	5,852,304	317,512		14,995,014	198,341	198,341	396,682		15,391,696

科目	公益目的事業						収益事業等			法人会計	合計	
	学術振興	学会誌	学術集会	市民講座等	共通	計	広告販売	連携事業	計			
<b>②管理費</b>												
懇親会費											680,000	680,000
学会総会費											867,000	867,000
社員総会費											4,795,000	4,795,000
理事会費											3,228,000	3,228,000
会場費												
会議費											50,000	50,000
旅費交通費											256,733	256,733
消耗品費											490,863	490,863
通信運搬費											809,597	809,597
印刷製本費											3,520	3,520
委託費											2,624,485	2,624,485
諸謝金											50,000	50,000
雑費											933,449	933,449
賃借料											1,867,458	1,867,458
租税公課											14,341	14,341
通勤手当											746,983	746,983
退職給付費用											340,249	340,249
福利厚生費											1,642,581	1,642,581
光熱水料費											288,625	288,625
修繕費											19,555	19,555
火災保険料											33,243	33,243
減価償却費											219,522	219,522
渉外費											20,000	20,000
慶弔費											50,000	50,000
支払負担金											380,000	380,000
支払寄付金												
給料手当（委員会等人件費含む）											9,468,304	9,468,304
<b>経常費用計</b>	22,523,616	33,658,599	84,222,289	1,940,677		142,345,181	1,331,549	403,209	1,734,758	29,879,508	173,959,447	
<b>当期経常増減額</b>	-19,653,616	-31,145,599	-25,182,289	-1,940,677	50,800,000	-27,122,181	9,502,451	-403,209	9,099,242	21,501,492	3,478,553	
<b>2. 経常外増減の部</b>												
(1) 経常外収益												
経常外収益計												
(2) 経常外費用												
経常外費用計												
<b>当期経常外増減額</b>												
他会計振替額					9,226,312	9,226,312	-9,226,312	0	-9,226,312			
<b>税引前当期一般正味財産増減額</b>	-19,653,616	-31,145,599	-25,182,289	-1,940,677	60,026,312	-17,895,869	276,139	-403,209	-127,070	21,501,492	3,478,553	
法人税、住民税及び事業税							70,000		70,000		70,000	
<b>当期一般正味財産増減額</b>	-19,653,616	-31,145,599	-25,182,289	-1,940,677	60,026,312	-17,895,869	206,139	-403,209	-197,070	21,501,492	3,408,553	

- 注1 従来形式の収支予算書で表示されている各委員会費支出、学術集会費支出は、事業の目的別に区分をし、各費用科目に予算を計上している。
- 注2 従来形式の収支予算書の事業費、管理費は科目ごとに一定の配賦割合（面積割合や従事割合など）に基づき、本収支予算書の事業費、管理費に配賦されている。
- 注3 従来形式の収支予算書に表示されている「退職給付支出」「資格喪失者会費支出」は本予算書には算入しない。
- 注4 従来形式の収支予算書に表示されていない「減価償却費」、「退職給付費用（要積立額）」を本予算書に計上している。

第3号議案

第42回日本看護科学学会学術集会会長の承認について

- ・第42回（2022年度）日本看護科学学会学術集会会長 候補者

森山 美知子（広島大学大学院）

## その他

### 若手研究者活性化に向けての取り組み報告書（案）

- ・若手研究者活性化に向けての取り組みに関するディスカッションポイント
  - 研究の公表の場（修士論文、博士論文発表の場としての位置づけ）
    - ・英文誌—投稿数の増加、迅速査読システム（博士審査用など）の構築
    - ・和文誌—投稿者の資格—筆頭著者のみ会員
  - 研究能力の向上
    - ・大型研究費の獲得—若手研究者を入れる
    - ・学術集会での表彰
    - ・システムティックレビューチームへの参画（ガイドライン）
    - ・指導者側の実態調査
  - 国際化
    - ・JANS 英語発表の増加
    - ・海外発表（口演）と海外研修の助成金制度